

令和 5 年度
過労死等に関する実態把握のための
労働・社会面の調査研究

調査報告書

令和 6 年 5 月

労働安全衛生総合研究所
社会労働衛生研究グループ

令和 5 年度 過労死等に関する実態把握のための労働・社会面の調査研究
調査報告書

令和 6 年 5 月 31 日発行

研究班構成

- 高橋 正也 （労働安全衛生総合研究所 社会労働衛生研究グループ 部長）
小林 秀行 （高知県立大学 准教授）
加島 遼平 （労働安全衛生総合研究所 社会労働衛生研究グループ 研究員）
高田 琢弘 （同研究所 同グループ 研究員）
王 薈琳 （同研究所 同グループ 研究員）
佐々木 毅 （同研究所 産業保健研究グループ 部長）

独立行政法人労働者健康安全機構

労働安全衛生総合研究所 社会労働衛生研究グループ

214-8585 川崎市多摩区長尾 6-21-1

芸術・芸能制作スタッフの働き方に関する調査

目次

要旨	1
1 はじめに	3
2 調査方法	4
3 性・年齢・職種別集計結果	8
4 各種状況別メンタルヘルス・主観的幸福度・睡眠時間	44
5 各種心理的負荷のある出来事の経験の有無による違い	50

要旨

芸術・芸能分野の仕事は人々に夢と希望を与えるものである。しかし、世間の華やかなイメージの裏で、過重労働や心理的負荷、また生活保障が十分ではない可能性が考えられる。我々は、把握が十分になされていない芸術・芸能分野で制作スタッフとして従事する人々の働き方の実態を捉えることを目的とし、アンケート調査を行った。

芸術・芸能制作スタッフが所属する 42 団体に対し、2023 年 10～12 月にかけて団体所属者へ web 調査への回答を依頼した。調査は日本リサーチセンターが実施した。結果として、27 団体に所属する 560 名から回答を得た。

年齢階層別・職種別にクロス集計を行うと、以下のような特徴がみられた。第一に、スケジュール上のオフについて、週 1 日未満の休日相当の割合は 27.0%であった。しかし、オフの日には自主的な手入れ等の仕事に関連した取り組みに充てる割合が高く、これらの日数を差し引いた実質的な休日数を算出すると、週 1 日未満休日相当の割合は全体で 56.5%と半数以上にのぼった。第二に、総拘束時間が週 60 時間以上の割合は、全体で 34.8%と高い水準であった。特に 30 代以下では 43.4%となっており、年齢階層が低くなるに伴って 60 時間以上の割合が高くなる傾向がみられた。職種では、技術スタッフ(46.2%)、舞台監督・制作関係・演出関係(40.7%)が 60 時間以上の割合が 40%を超えていた。第三に、うつ・不安障害の疑い(重度も含む){K6 スコア(うつ・不安障害の発生可能性やその重篤性を示す指標)が 10 点以上}がある者の割合は、全体で 30.7%と高水準であった。特に年齢階層が低くなるに伴ってうつ・不安障害の疑いがある者の割合が高くなる傾向がみられた。第四に、セクハラ関連の出来事の実験(過去 1 年間に経験したものに限らない)割合は、男性は 2.7%、女性では 9.5%となった。また、女性は年齢階層が低くなるに伴って経験割合が高くなる傾向がみられた。

第一の特徴から、4 人に 1 人程度がスケジュール上においても完全に休みの日が無いような環境で働いており、休み中に仕事のための準備や研鑽を行う人々を含めると約半数が休日にも仕事との繋がりを持ち続けていることが示唆された。また第

二、三の特徴から、他の年齢階層と比較すると若年のスタッフはより長時間の労働に直面しており、精神衛生の状態が悪い可能性が示唆された。第四の特徴から、セクハラ関連の心理的負荷のある出来事は女性の方が多く経験をしていた。また、全体的特徴として就業形態が自営業・フリーランスである回答者が最も多く60.7%を占めており、業界全体が自営業・フリーランスに主に支えられている様相が示唆された。

本調査は、団体所属者の構成員から得たデータであり、当該団体に所属しない個人等のデータは含まれないこと等から、日本の芸術・芸能制作スタッフ全体を代表した調査結果とは言い難い点、横断調査のために生じる逆因果関係及び交絡因子を調整しきれておらず因果関係に言及することが困難である点、回答者の平均の年齢階層や所得階層が高い点には注意を払う必要がある。このような限界はあるものの、把握が難しい日本の芸術・芸能分野の制作スタッフの働き方の実態と各種健康関連指標について計560名という規模で調査したという点で、本調査結果は意義があると考えられる。今後はこのような限界点も踏まえつつ、更なる芸術・芸能分野のデータ蓄積の進展が望まれる。

1 はじめに

芸術・芸能分野は、令和 3 年に見直された「過労死等の防止のための対策に関する大綱」において、重点業種等に準じて、社会情勢の変化に応じて、調査研究の対象に追加する業態等として例示された。芸術・芸能分野は、過重性の実態が指摘されているものの、これまで、働き方の実態が十分に把握されてこなかった。

このような背景から、我々は、芸術・芸能分野で制作スタッフとして従事する人々の働き方の実態やメンタルヘルス状況等を検討することを目的としてアンケート調査を行った。

2 調査方法

2.1 対象者と調査時期・期間

2023 年 10～12 月にかけて芸術・芸能制作スタッフが所属する 42 団体に、団体担当者を経由して所属の制作スタッフへの web 調査への参加・回答を依頼した。27 団体に所属する 560 名から回答を回収、有効回答として各種集計を行った。

2.2 調査票

調査票は以下に示す 27 の質問事項から構成される。

- 1:性別
- 2:年齢
- 3:活動年数
- 4:職種
- 5:休日数・手入れ日数・拘束時間・収入
- 6:仮に資産が十分あった場合の仕事の継続意欲
- 7:仮に収入が全く見込めない場合の仕事の継続意欲
- 8:心理的負荷のある出来事の経験
- 9:睡眠時間
- 10:仕事での運動習慣
- 11:日常での運動習慣
- 12:飲酒習慣
- 13:喫煙習慣
- 14:K6 スコア
- 15:ワーク・エンゲイジメント
- 16:健康診断受診の有無
- 17～22:ケイバビリティ
- 23:主観的幸福感
- 24:学歴

25:配偶者の有無

26:世帯人数

27:世帯年収

2.3 有効回答者とクロス集計に用いる個人属性(表 2.1, 表 2.2, 表 2.3, 表 2.4)

有効回答者について性別、年齢階層別、職種別に集計を行った。

有効回答者の性別についての集計を表 2.1 で示す。性別回答は、「男性」(58.6%)、「女性」(39.6%)、「答えたくない」(1.8%)であった。以降の男女別集計では、「答えたくない」の回答者 10 名を集計対象外として、性別集計結果を示している。

有効回答者の職種についての回答を表 2.2 で示す。職種についての元の回答は、「美術館や展覧会の設営スタッフ」とした回答者が 2 名存在したが、本報告書の集計に際して「芸術・芸能分野のその他の職種」へと分類した。主たる仕事の職種を尋ねたところ、有効回答者のうち回答者の占める割合の高い上位 3 職種は、「技術スタッフ」(31.3%)、「映像監督映像監督・助監督・演出家・プロデューサー」(18.0%)、「校正者・組版・編集者」(16.3%)であった。以降の職種別集計においては、主たる職種区分を利用して集計結果を示している。

有効回答者の年齢階層についての回答を表 2.3 で示す。年齢階層の回答は、「30 代以下」(30.0%)、「40～50 代」(56.4%)、「60 代以上」(13.6%)であった。

有効回答者の就業形態についての回答を表 2.4 で示す。就業形態の回答は、「自営業・フリーランス(劇団に所属等)」(60.7%)が顕著に多く、次いで「正社員・正職員」(22.0%)、「会社などの役員」(7.5%)となっていた。

なお、各設問には無回答者が存在するため、回答合計者数は各設問によって異なっている。

表2.1 有効回答者の性別

	n	%
男性	328	58.6
女性	222	39.6
答えたくない	10	1.8
合計	560	100.0

表2.2 有効回答者の職種

	n	%
映像監督・助監督・演出家・プロデューサー	101	18.0
技術スタッフ	175	31.3
舞台監督・制作関係・演出関係	66	11.8
脚本家・劇作家	19	3.4
校正者・組版・編集者	91	16.3
芸術・芸能分野のその他の職種	36	6.4
実演家	49	8.8
芸術・芸能以外の職業	23	4.1
合計	560	100.0

表2.3 有効回答者の年齢階層

	n	%
30代以下	168	30.0
40～50代	316	56.4
60代以上	76	13.6
合計	560	100.0

表2.4 有効回答者の就業形態

	n	%
正社員・正職員	123	22.0
契約社員・嘱託	28	5.0
パート・アルバイト	15	2.7
臨時・日雇社員	1	0.2
労働者派遣事業所の派遣社員	4	0.7
会社などの役員	42	7.5
自営業・フリーランス (劇団に所属等)	340	60.7
その他	7	1.3
合計	560	100.0

3 性・年齢・職種別集計結果

本章では、性・年齢・職種別に各種属性及び状況についての検討結果を概説する。

3.1 個人属性

3.1.1 男女別個人属性(表 3.1.1)

年齢は、「40～50 代」の回答者の割合が男女ともに最も高く、男性(58.2%)、女性(54.5%)であった。

職種では、男性は、「技術スタッフ」(36.6%)、「映像監督・助監督・演出家・プロデューサー」(23.5%)、「舞台監督・制作関係・演出関係」(11.0%)の順で高く、女性では、「校正者・組版・編集者」(26.1%)、「技術スタッフ」(23.0%)、「舞台監督・制作関係・演出関係」(13.5%)の順で高かった。

活動年数は、男性は「30 年以上」(31.1%)と答えた割合が最も高く、女性は「5～9 年」(20.8%)が最も高かった。

学歴では、「大学」と答えた割合が男女共に最も高く、男性(49.8%)、女性(48.2%)であった。

3.1.2 男女別世帯状況(表 3.1.2)

配偶者がいる者の割合は、男性(59.0%)、女性(47.5%)であった。未婚の者の割合は、男性(32.7%)、女性(47.1%)であった。

世帯人数では、2 人と回答した者の割合は男女ともに最も高く、男性(35.4%)、女性(31.5%)であった。

世帯年収について、割合が最も高い区分は男性「900 万円以上」(24.2%)、女性「900 万円以上」(15.0%)であった。

3.1.3 男女別生活習慣と健診受診状況(表 3.1.3)

仕事で身体を動かす習慣の有無について、「あまりない」と回答した者の割合が男女ともに最も高く、男性(42.4%)、女性(65.3%)であった。仕事以外で身体を動かす習慣の有無でも、「あまりない」と回答した者の割合が男女ともに最も高く、男性(33.6%)、女性(38.3%)であった。

飲酒習慣の有無では、「飲まない」と回答した者の割合が男女ともに最も高く、男性(30.5%)、女性(45.9%)であった。

喫煙習慣の有無について、調査時点で「吸っている」者の割合は、男性(27.4%)、女性(9.5%)であった。

健康診断の受診の有無については、男性(61.9%)、女性(61.3%)と60%以上の者が受診をしていた。

表3.1.1 男女別個人属性

	男性		女性		全体	
	n	%	n	%	n	%
年齢						
30代以下	88	26.8	75	33.8	163	29.6
40～50代	191	58.2	121	54.5	312	56.7
60代以上	49	14.9	26	11.7	75	13.6
合計	328	100.0	222	100.0	550	100.0
職種						
映像監督・助監督・演出家・プロデューサー	77	23.5	22	9.9	99	18.0
技術スタッフ	120	36.6	51	23.0	171	31.1
舞台監督・制作関係・演出関係	36	11.0	30	13.5	66	12.0
脚本家・劇作家	10	3.0	9	4.1	19	3.5
校正者・組版・編集者	30	9.1	58	26.1	88	16.0
芸術・芸能分野のその他の職種	17	5.2	18	8.1	35	6.4
実演家	22	6.7	27	12.2	49	8.9
芸術・芸能以外の職業	16	4.9	7	3.2	23	4.2
合計	328	100.0	222	100.0	550	100.0
活動年数						
5年未満	17	5.2	25	11.3	42	7.7
5～9年	27	8.2	46	20.8	73	13.3
10～14年	37	11.3	29	13.1	66	12.0
15～19年	51	15.5	34	15.4	85	15.5
20～24年	50	15.2	30	13.6	80	14.6
25～29年	44	13.4	23	10.4	67	12.2
30年以上	102	31.1	34	15.4	136	24.8
合計	328	100.0	221	100.0	549	100.0
学歴						
小・中学校	3	0.9	1	0.5	4	0.7
高校	59	18.0	24	10.8	83	15.1
専門学校	70	21.4	40	18.0	110	20.0
短大・高専	9	2.8	14	6.3	23	4.2
大学	163	49.8	107	48.2	270	49.2
大学院	15	4.6	25	11.3	40	7.3
その他（養成所など）	5	1.5	9	4.1	14	2.6
回答しない	3	0.9	2	0.9	5	0.9
合計	327	100.0	222	100.0	549	100.0

表3.1.2 男女別世帯状況

	男性		女性		全体	
	n	%	n	%	n	%
配偶者						
いる	193	59.0	105	47.5	298	54.4
いない（未婚）	107	32.7	104	47.1	211	38.5
いない（離婚）	24	7.3	10	4.5	34	6.2
いない（死別）	0	0.0	1	0.5	1	0.2
回答しない	3	0.9	1	0.5	4	0.7
合計	327	100.0	221	100.0	548	100.0
世帯人数						
1人	80	24.4	68	30.6	148	26.9
2人	116	35.4	70	31.5	186	33.8
3人	65	19.8	56	25.2	121	22.0
4人以上	63	19.2	25	11.3	88	16.0
回答しない	4	1.2	3	1.4	7	1.3
合計	328	100.0	222	100.0	550	100.0
世帯年収						
100万円未満	3	0.9	6	2.7	9	1.6
100～199万円	15	4.6	14	6.4	29	5.3
200～299万円	19	5.8	16	7.3	35	6.4
300～399万円	37	11.3	31	14.1	68	12.4
400～499万円	31	9.5	26	11.8	57	10.4
500～599万円	31	9.5	24	10.9	55	10.1
600～699万円	32	9.8	12	5.5	44	8.0
700～799万円	35	10.7	13	5.9	48	8.8
800～899万円	27	8.3	15	6.8	42	7.7
900万円以上	79	24.2	33	15.0	112	20.5
わからない・回答しない	18	5.5	30	13.6	48	8.8
合計	327	100.0	220	100.0	547	100.0

表3.1.3 男女別生活習慣

	男性		女性		全体	
	n	%	n	%	n	%
仕事で身体を動かす習慣						
あまりない	139	42.4	145	65.3	284	51.6
月に数回程度	64	19.5	32	14.4	96	17.5
週に1回以上・1週間計60分未満	40	12.2	18	8.1	58	10.5
週に1回以上・1週間計60分以上	85	25.9	27	12.2	112	20.4
合計	328	100.0	222	100.0	550	100.0
仕事以外で身体を動かす習慣						
あまりない	110	33.6	85	38.3	195	35.5
月に数回程度	94	28.7	60	27.0	154	28.1
週に1回以上・1週間計60分未満	42	12.8	32	14.4	74	13.5
週に1回以上・1週間計60分以上	81	24.8	45	20.3	126	23.0
合計	327	100.0	222	100.0	549	100.0
飲酒習慣						
飲まない	100	30.5	102	45.9	202	36.7
週1～2日程度	81	24.7	64	28.8	145	26.4
週3～5日程度	51	15.5	25	11.3	76	13.8
ほぼ毎日	96	29.3	31	14.0	127	23.1
合計	328	100.0	222	100.0	550	100.0
喫煙習慣						
吸わない	165	50.3	168	75.7	333	60.5
過去に吸っていた	73	22.3	33	14.9	106	19.3
吸っている	90	27.4	21	9.5	111	20.2
合計	328	100.0	222	100.0	550	100.0
健康診断の受診の有無						
受けた	203	61.9	136	61.3	339	61.6
受けていない	124	37.8	84	37.8	208	37.8
覚えていない・分からない	1	0.3	2	0.9	3	0.5
合計	328	100.0	222	100.0	550	100.0

3.2 働き方と収入

3.2.1 年齢階層別休日と自主的な手入れ(表 3.2.1)

年齢階層別に、1 か月の休日と自主的な手入れ等について集計を行った。

スケジュール上の休日数について、最も割合が高かったのは 30 代以下「0～3 日(週 1 日未満休日相当)」(30.8%)、40～50 代「7～10 日(週 2 日休日相当)」(30.5%)、60 代以上「7～10 日(週 2 日休日相当)」(27.9%)であった。

オフの日に自主的な手入れ等を実施する比率(スケジュール上の休日数のうち自主的に道具などの手入れや準備、仕事に関する知識や技術の習得をした日数)が「76～100%」の割合は、30 代以下(24.1%)、40～50 代(24.9%)、60 代以上(23.0%)であった。

オフの日に自主的な手入れ等を実施すると身体や精神の休息が十分でないことが考えられることから、上記のスケジュール上の休日数から自主的な手入れ等の実施日数を差し引くことで実質的な休日数を算出した。スケジュール上の休日数から分布が変化し、手入れ等を除いた実質的な休日数では「0～3 日(週 1 日未満休日相当)」の割合が全ての年齢階層で最も高く、30 代以下(61.5%)、40～50 代(55.7%)、60 代以上(50.0%)であった。

3.2.2 職種別休日と自主的な手入れ(表 3.2.2a, 表 3.2.2b)

職種別に、1 か月の休日と自主的な手入れ等について集計を行った。

スケジュール上の休日数は、「7～10日(週 2 日休日相当)」が最も高い職種が多く、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(31.3%)、舞台監督・制作関係・演出関係(32.8%)、校正者・組版・編集者(30.9%)、芸術・芸能分野のその他の職種(41.4%)、芸術・芸能以外の職業(33.3%)となった。なお、舞台監督・制作関係・演出関係は「4～6 日(週 1 日休日相当)」(32.8%)が同率となっている。一方で、技術スタッフ(28.2%)、脚本家・劇作家(30.8%)では、「0～3 日(週 1 日未満休日相当)」が最も高くなっている。実演家は「4～6 日(週 1 日休日相当)」(35.9%)が最も高くなった。

オフの日に自主的な手入れ等を実施する比率では、「0%」が映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(27.9%)、舞台監督・制作関係・演出関係(30.4%)、脚本家・劇作家(33.3%)、校正者・組版・編集者(43.5%)で最も高くなった。なお、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(27.9%)、脚本家・劇作家(33.3%)では「76～100%」の回答も同率となっており、二極化している様子がうかがえる。「76～100%」が最も高くなったのは技術スタッフ(30.2%)と実演家(42.4%)、芸術・芸能以外の職業(31.3%)であった。芸術・芸能分野のその他の職種では「26～50%」(33.3%)が最も高くなった。

手入れ等を除いた実質的な休日数を確認すると、いずれの職種でも「0～3 日(週 1 日未満休日相当)」が最も高く、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(63.8%)、技術スタッフ(58.5%)、舞台監督・制作関係・演出関係(51.7%)、脚本家・劇作家(61.5%)、校正者・組版・編集者(45.7%)、芸術・芸能分野のその他の職種(44.8%)、実演家(71.8%)、芸術・芸能以外の職業(55.6%)となった。

3.2.3 年齢階層別各種仕事の拘束時間(表 3.2.3)

年齢階層別に、「芸術・芸能分野の制作の仕事(手入れ等を含む)」「(以下「制作の仕事」と略する)、「芸術・芸能分野に関係した仕事(制作などの業務で得た技術や知識を活かした講師の仕事、演出、映像制作、撮影など)」(以下「芸術・芸能関係の仕事」と略する)、「芸術・芸能分野以外の仕事」(以下「芸術・芸能以外の仕事」と略する)の3種の仕事における週拘束時間について集計を行った。

各種仕事について、過去1か月に1時間以上その種の仕事をした者の集計を行った。総拘束時間と各種仕事の拘束時間の比率については、3種のうち1つ以上の仕事に回答がある場合、他の無回答の仕事については0時間として算出した。また、飲食や睡眠等の最低限度必要とされる時間を1日7時間であると仮定し(週168時間から7時間×7日=49時間を引くと119時間)、総拘束時間が120時間以上を異常値とみなし、総拘束時間が120時間未満と回答した者について集計した。

各種仕事の拘束時間について、制作の仕事は、全ての年齢階層で「40時間以上60時間未満」が最も高く、30代以下(41.5%)、40～50代(40.0%)、60代以上では(35.7%)となっている。芸術・芸能関係の仕事と芸術・芸能分野以外の仕事ではいずれの年齢でも「20時間未満」が最も高くなっている。

総拘束時間をみると、年齢階層が低いほど、「60時間以上」の割合が高く、拘束時間が長い傾向があった。

各種仕事の総拘束時間に占める比率では、全ての年齢階層で「制作の仕事」が最大であり、30代以下(83.6%)、40～50代(80.9%)、60代以上(69.4%)であった。

3.2.4 職種別各種仕事の拘束時間(表 3.2.4a, 表 3.2.4b)

職種別に、各種仕事の拘束時間等について集計を行った。

職種別各種仕事の拘束時間は、制作の仕事では、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(49.4%)、技術スタッフ(37.9%)、舞台監督・制作関係・演出関係(41.1%)、脚本家・劇作家(50.0%)、校正者・組版・編集者(36.5%)、芸術・芸能

分野のその他の職種(46.2%)、実演家(34.1%)で、「40 時間以上 60 時間未満」の割合が最も高くなった。芸術・芸能関係の仕事および、芸術・芸能以外の仕事においては、「20 時間未満」の割合が全ての職種で最も高くなった。

総拘束時間では、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(43.2%)、舞台監督・制作関係・演出関係(32.4%)、脚本家・劇作家(42.4%)、校正者・組版・編集者(60.0%)、芸術・芸能分野のその他の職種(44.4%)において、「40 時間以上 60 時間未満」の割合が最も高かった。技術スタッフ(46.2%)、実演家(36.2%)では「60 時間以上」の割合が最も高かった。芸術・芸能以外の職業では、「20 時間以上 40 時間未満」、「40 時間以上 60 時間未満」が同率(28.6%)となっている。

総拘束時間に占める比率では、芸術・芸能以外の職業を除く全ての職種で「制作の仕事」が最大であり、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(81.1%)、技術スタッフ(81.4%)、舞台監督・制作関係・演出関係(89.1%)、脚本家・劇作家(75.9%)、校正者・組版・編集者(88.9%)、芸術・芸能分野のその他の職種(81.6%)、実演家(70.4%)となった。

3.2.5 年齢階層別各種仕事の月間収入(表 3.2.5)

年齢階層別に、上記の 3 種の仕事における月間収入等について集計を行った。

各種仕事について、1 円以上と回答をした者について集計を行った。総拘束時間と拘束時間の比率については、3 種のうち 1 つ以上の仕事に回答がある場合、他の無回答の仕事は 0 円として算出した。

各種仕事の月間収入について、芸術・芸能分野の制作の仕事は 30 代以下(31.3%)、40～50 代(46.2%)、60 代以上(32.1%)の全ての年齢階層において「40 万円以上」の割合が最も高くなった。

総月間収入についてもすべての年齢階層において「40 万円以上」の割合が最も高くなった。

総月間収入に占める比率では、全ての年齢階層で「制作の仕事」が最大であった。

3.2.6 職種別各種仕事の月間収入(表 3.2.6a, 表 3.2.6b)

職種別に、各種仕事の月間収入等について集計を行った。

制作の仕事では、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(61.5%)、技術スタッフ(40.9%)、舞台監督・制作関係・演出関係(55.2%)、校正者・組版・編集者(30.1%)、実演家(22.5%)において、「40 万円以上」の割合が最も高くなった。また、芸術・芸能分野のその他の職種では「30 万円以上 35 万円未満」(25.0%)の割合が最も高くなった。

総月間収入では、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(62.2%)、技術スタッフ(46.7%)、舞台監督・制作関係・演出関係(52.5%)、校正者・組版・編集者(30.6%)、実演家(23.4%)で、「40 万円以上」の割合が最も高くなった一方、脚本家・劇作家(46.2%)、芸術・芸能以外の職業(36.8%)において、「10 万円未満」の割合が最も高くなった。また、芸術・芸能分野のその他の職種では「30万円以上 35 万円未満」(24.1%)の割合が最も高くなった。

総月間収入に占める平均比率では、芸術・芸能以外の職業を除く全ての職種において「制作の仕事」が最大であり、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(78.7%)、技術スタッフ(82.0%)、舞台監督・制作関係・演出関係(89.5%)、脚本家・劇作家(56.9%)、校正者・組版・編集者(91.1%)、芸術・芸能分野のその他の職種(83.7%)、実演家(71.6%)となった。

表3.2.1 年齢階層別休日と自主的な手入れ

	30代以下		40～50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
スケジュール上の休日数								
0～3日 (週1日未満休日相当)	40	30.8	72	27.5	12	17.6	124	27.0
4～6日 (週1日休日相当)	39	30.0	63	24.0	18	26.5	120	26.1
7～10日 (週2日休日相当)	37	28.5	80	30.5	19	27.9	136	29.6
11～14日 (週3日休日相当)	4	3.1	12	4.6	2	2.9	18	3.9
15～19日 (週4日休日相当)	5	3.8	9	3.4	4	5.9	18	3.9
20～23日 (週5日休日相当)	1	0.8	11	4.2	6	8.8	18	3.9
24日以上 (週6日以上休日相当)	4	3.1	15	5.7	7	10.3	26	5.7
合計	130	100.0	262	100.0	68	100.0	460	100.0
オフの日の自主的な仕事に係る勉強や手入れ等の割合 (注1) (注2)								
0%	24	20.7	68	29.2	11	18.0	103	25.1
1～25%	19	16.4	37	15.9	12	19.7	68	16.6
26～50%	27	23.3	46	19.7	14	23.0	87	21.2
51～75%	18	15.5	24	10.3	10	16.4	52	12.7
76～100%	28	24.1	58	24.9	14	23.0	100	24.4
合計	116	100.0	233	100.0	61	100.0	410	100.0
自主的な仕事に係る勉強や手入れ等を除いた実質的な休日数 (注1) (注3)								
0～3日 (週1日未満休日相当)	80	61.5	146	55.7	34	50.0	260	56.5
4～6日 (週1日休日相当)	27	20.8	50	19.1	9	13.2	86	18.7
7～10日 (週2日休日相当)	19	14.6	41	15.6	12	17.6	72	15.7
11～14日 (週3日休日相当)	3	2.3	10	3.8	3	4.4	16	3.5
15～19日 (週4日休日相当)	0	0.0	8	3.1	3	4.4	11	2.4
20～23日 (週5日休日相当)	1	0.8	6	2.3	3	4.4	10	2.2
24日以上 (週6日以上休日相当)	0	0.0	1	0.4	4	5.9	5	1.1
合計	130	100.0	262	100.0	68	100.0	460	100.0

(注 1) 一部回答者の「オフの日の自主的な仕事に係る勉強や手入れ等の割合」の回答が「スケジュール上の休日数」を超えていた。

そのような個人（74 名）は集計対象外とした。

(注 2)「オフの日の自主的な仕事に係る勉強や手入れ等の割合」の計算には、「オフの日の自主的な仕事にかかる勉強や手入れ日数」を「スケジュール上の休日数」で割ることで求めた。

(注 3)「スケジュール上の休日数」から「オフの日の自主的な仕事に係る勉強や手入れ日数」を引くことで求めた。「スケジュール上の休日数」が0の者を含む。

表3.2.2a 職種別休日と自主的な手入れ

	映像監督・助監督・ 演出家・プロデューサー		技術スタッフ		舞台監督・制作関係 ・演出関係		脚本家・劇作家		校正者・組版 ・編集者	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
スケジュール上の休日										
0～3日 (週1日未満休日相当)	23	28.8	40	28.2	16	27.6	4	30.8	21	25.9
4～6日 (週1日休日相当)	24	30.0	30	21.1	19	32.8	1	7.7	22	27.2
7～10日 (週2日休日相当)	25	31.3	38	26.8	19	32.8	3	23.1	25	30.9
11～14日 (週3日休日相当)	3	3.8	4	2.8	2	3.4	1	7.7	4	4.9
15～19日 (週4日休日相当)	0	0.0	9	6.3	1	1.7	0	0.0	3	3.7
20～23日 (週5日休日相当)	3	3.8	8	5.6	0	0.0	2	15.4	3	3.7
24日以上 (週6日以上休日相当)	2	2.5	13	9.2	1	1.7	2	15.4	3	3.7
合計	80	100.0	142	100.0	58	100.0	13	100.0	81	100.0
オフの日の自主的な仕事に係る勉強や手入れ等の割合 (注2)										
0%	19	27.9	20	15.5	17	30.4	4	33.3	30	43.5
1～25%	6	8.8	22	17.1	13	23.2	1	8.3	13	18.8
26～50%	15	22.1	28	21.7	11	19.6	2	16.7	14	20.3
51～75%	9	13.2	20	15.5	8	14.3	1	8.3	5	7.2
76～100%	19	27.9	39	30.2	7	12.5	4	33.3	7	10.1
合計	68	100.0	129	100.0	56	100.0	12	100.0	69	100.0
自主的な仕事に係る勉強や手入れ等を除いた実質的な休日数 (注1) (注3)										
0～3日 (週1日未満休日相当)	51	63.8	83	58.5	30	51.7	8	61.5	37	45.7
4～6日 (週1日休日相当)	18	22.5	21	14.8	15	25.9	1	7.7	13	16.0
7～10日 (週2日休日相当)	9	11.3	20	14.1	11	19.0	2	15.4	21	25.9
11～14日 (週3日休日相当)	0	0.0	8	5.6	1	1.7	0	0.0	4	4.9
15～19日 (週4日休日相当)	1	1.3	3	2.1	0	0.0	0	0.0	3	3.7
20～23日 (週5日休日相当)	1	1.3	4	2.8	1	1.7	1	7.7	2	2.5
24日以上 (週6日以上休日相当)	0	0.0	3	2.1	0	0.0	1	7.7	1	1.2
合計	80	100.0	142	100.0	58	100.0	13	100.0	81	100.0

(注 1) 一部回答者の「オフの日の自主的な仕事に係る勉強や手入れ等の割合」の回答が「スケジュール上の休日数」を超えていた。そのような個人（74 名）は集計対象外とした。

(注 2) 「オフの日の自主的な仕事に係る勉強や手入れ等の割合の計算」には、「オフの日の自主的な仕事にかかる勉強や手入れ日数」を「スケジュール上の休日数」で割ることで求めた。

(注 3) 「スケジュール上の休日数」から「オフの日の自主的な仕事に係る勉強や手入れ日数」を引くことで求めた。「スケジュール上の休日数」が0の者を含む。

表3.2.2b 職種別休日と自主的な手入れ

	芸術・芸能分野の その他の職種		実演家		芸術・芸能以外 の職業		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
スケジュール上の休日								
0～3日 (週1日未満休日相当)	5	17.2	12	30.8	3	16.7	124	27.0
4～6日 (週1日休日相当)	7	24.1	14	35.9	3	16.7	120	26.1
7～10日 (週2日休日相当)	12	41.4	8	20.5	6	33.3	136	29.6
11～14日 (週3日休日相当)	3	10.3	1	2.6	0	0.0	18	3.9
15～19日 (週4日休日相当)	1	3.4	1	2.6	3	16.7	18	3.9
20～23日 (週5日休日相当)	1	3.4	1	2.6	0	0.0	18	3.9
24日以上 (週6日以上休日相当)	0	0.0	2	5.1	3	16.7	26	5.7
合計	29	100.0	39	100.0	18	100.0	460	100.0
オフの日の自主的な仕事に係る勉強や手入れ等の割合（注2）								
0%	4	14.8	6	18.2	3	18.8	103	25.1
1～25%	7	25.9	2	6.1	4	25.0	68	16.6
26～50%	9	33.3	6	18.2	2	12.5	87	21.2
51～75%	2	7.4	5	15.2	2	12.5	52	12.7
76～100%	5	18.5	14	42.4	5	31.3	100	24.4
合計	27	100.0	33	100.0	16	100.0	410	100.0
自主的な仕事に係る勉強や手入れ等を除いた実質的な休日数（注1）（注3）								
0～3日 (週1日未満休日相当)	13	44.8	28	71.8	10	55.6	260	56.5
4～6日 (週1日休日相当)	8	27.6	7	17.9	3	16.7	86	18.7
7～10日 (週2日休日相当)	5	17.2	2	5.1	2	11.1	72	15.7
11～14日 (週3日休日相当)	1	3.4	0	0.0	2	11.1	16	3.5
15～19日 (週4日休日相当)	2	6.9	2	5.1	0	0.0	11	2.4
20～23日 (週5日休日相当)	0	0.0	0	0.0	1	5.6	10	2.2
24日以上 (週6日以上休日相当)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	1.1
合計	29	100.0	39	100.0	18	100.0	460	100.0

（注 1）一部回答者の「オフの日の自主的な仕事に係る勉強や手入れ等の割合」の回答が「スケジュール上の休日数」を超えていた。そのような個人（74 名）は集計対象外とした。

（注 2）「オフの日の自主的な仕事に係る勉強や手入れ等の割合」の計算には、「オフの日の自主的な仕事にかかる勉強や手入れ日数」を「スケジュール上の休日数」で割ることで求めた。

（注 3）「スケジュール上の休日数」から「オフの日の自主的な仕事に係る勉強や手入れ日数」を引くことで求めた。「スケジュール上の休日数」が 0 の者を含む。

表3.2.3 年齢階層別週拘束時間

	30代以下		40～50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
芸術・芸能分野の制作の仕事								
20時間未満	17	12.6	38	14.9	14	25.0	69	15.5
20時間以上40時間未満	17	12.6	52	20.4	13	23.2	82	18.4
40時間以上60時間未満	56	41.5	102	40.0	20	35.7	178	39.9
60時間以上	45	33.3	63	24.7	9	16.1	117	26.2
合計	135	100.0	255	100.0	56	100.0	446	100.0
芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事（制作技術講師等）								
20時間未満	20	54.1	48	62.3	16	69.6	84	61.3
20時間以上40時間未満	6	16.2	16	20.8	2	8.7	24	17.5
40時間以上60時間未満	6	16.2	9	11.7	3	13.0	18	13.1
60時間以上	5	13.5	4	5.2	2	8.7	11	8.0
合計	37	100.0	77	100.0	23	100.0	137	100.0
芸術・芸能分野以外の仕事								
20時間未満	13	56.5	30	57.7	11	68.8	54	59.3
20時間以上40時間未満	8	34.8	9	17.3	2	12.5	19	20.9
40時間以上60時間未満	0	0.0	13	25.0	3	18.8	16	17.6
60時間以上	2	8.7	0	0.0	0	0.0	2	2.2
合計	23	100.0	52	100.0	16	100.0	91	100.0
総拘束時間（上記3種の合計値）								
20時間未満	9	6.3	24	8.7	17	24.6	50	10.2
20時間以上40時間未満	19	13.3	49	17.7	14	20.3	82	16.8
40時間以上60時間未満	53	37.1	112	40.4	22	31.9	187	38.2
60時間以上	62	43.4	92	33.2	16	23.2	170	34.8
合計	143	100.0	277	100.0	69	100.0	489	100.0
各種仕事の総拘束時間に占める平均比率（注）								
制作の仕事		83.6		80.9		69.4		80.0
芸術・芸能関係の仕事		10.3		9.7		16.1		10.8
芸術・芸能分野以外の仕事		6.1		9.5		14.5		9.2
合計		100.0		100.0		100.0		100.0

（注）「制作の仕事」は「芸術・芸能分野の制作の仕事（稽古等を含む）」、「芸術・芸能関係の仕事」は「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事（制作技術講師等）」、「芸術・芸能以外の仕事」は「芸術・芸能分野以外の仕事」とそれぞれ対応する。

表3.2.4a 職種別週拘束時間

	映像監督・助監督・ 演出家・プロデューサー		技術スタッフ		舞台監督・制作関係 ・演出関係		脚本家・劇作家		校正者・組版・編集者	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
芸術・芸能分野の制作の仕事										
20時間未満	12	15.2	14	10.6	3	5.4	4	28.6	14	16.5
20時間以上40時間未満	7	8.9	20	15.2	8	14.3	2	14.3	27	31.8
40時間以上60時間未満	39	49.4	50	37.9	23	41.1	7	50.0	31	36.5
60時間以上	21	26.6	48	36.4	22	39.3	1	7.1	13	15.3
合計	79	100.0	132	100.0	56	100.0	14	100.0	85	100.0
芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事（制作技術講師等）										
20時間未満	18	64.3	18	45.0	8	80.0	4	100.0	10	66.7
20時間以上40時間未満	4	14.3	9	22.5	1	10.0	0	0.0	2	13.3
40時間以上60時間未満	4	14.3	8	20.0	1	10.0	0	0.0	2	13.3
60時間以上	2	7.1	5	12.5	0	0.0	0	0.0	1	6.7
合計	28	100.0	40	100.0	10	100.0	4	100.0	15	100.0
芸術・芸能分野以外の仕事										
20時間未満	10	66.7	17	81.0	4	66.7	2	33.3	5	62.5
20時間以上40時間未満	3	20.0	2	9.5	1	16.7	2	33.3	1	12.5
40時間以上60時間未満	2	13.3	2	9.5	1	16.7	2	33.3	2	25.0
60時間以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	15	100.0	21	100.0	6	100.0	6	100.0	8	100.0
総拘束時間（上記3種の合計値）										
20時間未満	11	12.5	13	9.0	4	6.8	2	13.3	8	9.2
20時間以上40時間未満	9	10.2	18	12.4	6	10.2	1	6.7	26	29.9
40時間以上60時間未満	38	43.2	47	32.4	25	42.4	9	60.0	36	41.4
60時間以上	30	34.1	67	46.2	24	40.7	3	20.0	17	19.5
合計	88	100.0	145	100.0	59	100.0	15	100.0	87	100.0
各種仕事の総拘束時間に占める平均比率（注）										
制作の仕事		81.1		81.4		89.1		75.9		88.9
芸術・芸能分野関係の仕事		12.7		13.1		5.3		5.7		7.0
芸術・芸能分野以外の仕事		6.1		5.4		5.6		18.5		4.0
合計		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0

（注）「制作の仕事」は「芸術芸能分野の制作の仕事（稽古等含む）」、「芸術・芸能分野関係の仕事」は「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事（制作技術講師等）」、「芸術・芸能以外の仕事」は「芸術・芸能分野以外の仕事」とそれぞれ対応する。

表3.2.4b 職種別週拘束時間

	芸術・芸能分野の その他の職種		実演家		芸術・芸能以外の職業		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
芸術・芸能分野の実演制作の仕事								
20時間未満	4	15.4	12	27.3	6	60.0	69	15.5
20時間以上40時間未満	7	26.9	8	18.2	3	30.0	82	18.4
40時間以上60時間未満	12	46.2	15	34.1	1	10.0	178	39.9
60時間以上	3	11.5	9	20.5	0	0.0	117	26.2
合計	26	100.0	44	100.0	10	100.0	446	100.0
芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事（制作技術講師等）								
20時間未満	11	78.6	11	55.0	4	66.7	84	61.3
20時間以上40時間未満	2	14.3	5	25.0	1	16.7	24	17.5
40時間以上60時間未満	1	7.1	1	5.0	1	16.7	18	13.1
60時間以上	0	0.0	3	15.0	0	0.0	11	8.0
合計	14	100.0	20	100.0	6	100.0	137	100.0
芸術・芸能分野以外の仕事								
20時間未満	2	66.7	10	62.5	4	25.0	54	59.3
20時間以上40時間未満	0	0.0	5	31.3	5	31.3	19	20.9
40時間以上60時間未満	1	33.3	1	6.3	5	31.3	16	17.6
60時間以上	0	0.0	0	0.0	2	12.5	2	2.2
合計	3	100.0	16	100.0	16	100.0	91	100.0
総拘束時間（上記3種の合計値）								
20時間未満	3	11.1	5	10.6	4	19.0	50	10.2
20時間以上40時間未満	5	18.5	11	23.4	6	28.6	82	16.8
40時間以上60時間未満	12	44.4	14	29.8	6	28.6	187	38.2
60時間以上	7	25.9	17	36.2	5	23.8	170	34.8
合計	27	100.0	47	100.0	21	100.0	489	100.0
各種仕事の総拘束時間に占める平均比率（注）								
制作の仕事		81.6		70.4		26.4		80.0
芸術・芸能分野関係の仕事		13.6		14.7		8.2		10.8
芸術・芸能分野以外の仕事		4.8		14.9		65.4		9.2
合計		100.0		100.0		100.0		0.0

（注）「制作の仕事」は「芸術芸能分野の制作の仕事（稽古等含む）」、「芸術・芸能分野関係の仕事」は「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事（制作技術講師等）」、「芸術・芸能以外の仕事」は「芸術・芸能分野以外の仕事」とそれぞれ対応する。

表3.2.5 年齢階層別月間収入

	30代以下		40～50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
芸術・芸能分野の制作の仕事								
10万円未満	12	9.0	26	10.4	10	17.9	48	10.9
10万円以上15万円未満	13	9.7	9	3.6	9	16.1	31	7.0
15万円以上20万円未満	3	2.2	14	5.6	3	5.4	20	4.5
20万円以上25万円未満	18	13.4	25	10.0	6	10.7	49	11.1
25万円以上30万円未満	15	11.2	15	6.0	1	1.8	31	7.0
30万円以上35万円未満	19	14.2	31	12.4	8	14.3	58	13.2
35万円以上40万円未満	12	9.0	15	6.0	1	1.8	28	6.3
40万円以上	42	31.3	116	46.2	18	32.1	176	39.9
合計	134	100.0	251	100.0	56	100.0	441	100.0
芸術・芸能分野の技術技能を生かした仕事（講師等）								
10万円未満	14	41.2	29	48.3	7	38.9	50	44.6
10万円以上15万円未満	5	14.7	8	13.3	4	22.2	17	15.2
15万円以上20万円未満	2	5.9	2	3.3	1	5.6	5	4.5
20万円以上25万円未満	2	5.9	5	8.3	0	0.0	7	6.3
25万円以上30万円未満	2	5.9	0	0.0	0	0.0	2	1.8
30万円以上35万円未満	2	5.9	3	5.0	1	5.6	6	5.4
35万円以上40万円未満	1	2.9	1	1.7	0	0.0	2	1.8
40万円以上	6	17.6	12	20.0	5	27.8	23	20.5
合計	34	100.0	60	100.0	18	100.0	112	100.0
芸術・芸能分野以外の仕事（注1）								
10万円未満	14	60.9	32	60.4	9	69.2	55	61.8
10万円以上15万円未満	3	13.0	2	3.8	2	15.4	7	7.9
15万円以上20万円未満	0	0.0	1	1.9	1	7.7	2	2.2
20万円以上25万円未満	1	4.3	6	11.3	0	0.0	7	7.9
25万円以上30万円未満	1	4.3	2	3.8	0	0.0	3	3.4
30万円以上35万円未満	0	0.0	3	5.7	0	0.0	3	3.4
35万円以上40万円未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40万円以上	4	17.4	7	13.2	1	7.7	12	13.5
合計	23	100.0	53	100.0	13	100.0	89	100.0
総月間収入（上記3種の合計値）（注1）								
10万円未満	15	10.2	34	12.1	12	17.9	61	12.3
10万円以上15万円未満	12	8.2	10	3.5	8	11.9	30	6.0
15万円以上20万円未満	4	2.7	17	6.0	5	7.5	26	5.2
20万円以上25万円未満	18	12.2	25	8.9	7	10.4	50	10.1
25万円以上30万円未満	19	12.9	16	5.7	2	3.0	37	7.5
30万円以上35万円未満	13	8.8	28	9.9	8	11.9	49	9.9
35万円以上40万円未満	14	9.5	19	6.7	1	1.5	34	6.9
40万円以上	52	35.4	133	47.2	24	35.8	209	42.1
合計	147	100.0	282	100.0	67	100.0	496	100.0
各種仕事の総月間収入に占める平均比率（注2）								
制作の仕事		81.2		79.9		74.4		79.5
芸術・芸能関係の仕事		11.2		9.6		14.9		10.8
芸術・芸能関係以外の仕事		7.6		10.6		10.7		9.7
合計		100.0		100.0		100.0		100.0

（注 1）月収について「1 億円以上」と回答した個人（4 名）は集計対象外とした。

（注 2）「制作の仕事」は「芸術芸能分野の制作の仕事（稽古等含む）」、「芸術・芸能分野関係の仕事」は「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事（制作技術講師等）」、「芸術・芸能以外の仕事」は「芸術・芸能分野以外の仕事」とそれぞれ対応する。

表3.2.6a 職種別月間収入

	映像監督・助監督・ 演出家・プロデューサー		技術スタッフ		舞台監督・ 制作関係・演出関係		脚本家・劇作家		校正者・ 組版・編集者	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
芸術・芸能分野の制作の仕事										
10万円未満	2	2.6	13	9.5	4	6.9	4	40.0	17	20.5
10万円以上15万円未満	4	5.1	8	5.8	3	5.2	0	0.0	7	8.4
15万円以上20万円未満	1	1.3	2	1.5	0	0.0	2	20.0	8	9.6
20万円以上25万円未満	4	5.1	14	10.2	10	17.2	0	0.0	9	10.8
25万円以上30万円未満	4	5.1	15	10.9	3	5.2	0	0.0	3	3.6
30万円以上35万円未満	12	15.4	18	13.1	5	8.6	0	0.0	8	9.6
35万円以上40万円未満	3	3.8	11	8.0	1	1.7	1	10.0	6	7.2
40万円以上	48	61.5	56	40.9	32	55.2	3	30.0	25	30.1
合計	78	100.0	137	100.0	58	100.0	10	100.0	83	100.0
芸術・芸能分野の技術技能を生かした仕事（講師等）										
10万円未満	9	45.0	6	15.0	7	70.0	3	100.0	8	80.0
10万円以上15万円未満	2	10.0	11	27.5	1	10.0	0	0.0	1	10.0
15万円以上20万円未満	1	5.0	2	5.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20万円以上25万円未満	3	15.0	1	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25万円以上30万円未満	1	5.0	1	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
30万円以上35万円未満	0	0.0	5	12.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
35万円以上40万円未満	1	5.0	1	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40万円以上	3	15.0	13	32.5	2	20.0	0	0.0	1	10.0
合計	20	100.0	40	100.0	10	100.0	3	100.0	10	100.0
芸術・芸能分野以外の仕事（注1）										
10万円未満	5	38.5	13	56.5	5	100.0	4	66.7	6	75.0
10万円以上15万円未満	0	0.0	5	21.7	0	0.0	0	0.0	1	12.5
15万円以上20万円未満	1	7.7	0	0.0	0	0.0	1	16.7	0	0.0
20万円以上25万円未満	2	15.4	1	4.3	0	0.0	0	0.0	1	12.5
25万円以上30万円未満	1	7.7	1	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
30万円以上35万円未満	1	7.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
35万円以上40万円未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40万円以上	3	23.1	3	13.0	0	0.0	1	16.7	0	0.0
合計	13	100.0	23	100.0	5	100.0	6	100.0	8	100.0
総月間収入（上記3種の合計値）（注1）										
10万円未満	7	7.8	12	7.9	5	8.2	6	46.2	15	17.6
10万円以上15万円未満	3	3.3	7	4.6	4	6.6	0	0.0	9	10.6
15万円以上20万円未満	3	3.3	4	2.6	1	1.6	2	15.4	8	9.4
20万円以上25万円未満	4	4.4	15	9.9	9	14.8	0	0.0	10	11.8
25万円以上30万円未満	6	6.7	17	11.2	3	4.9	1	7.7	3	3.5
30万円以上35万円未満	9	10.0	13	8.6	5	8.2	0	0.0	6	7.1
35万円以上40万円未満	2	2.2	13	8.6	2	3.3	1	7.7	8	9.4
40万円以上	56	62.2	71	46.7	32	52.5	3	23.1	26	30.6
合計	90	100.0	152	100.0	61	100.0	13	100.0	85	100.0
各種仕事の総月間収入に占める平均比率（注2）										
制作の仕事		78.7		79.3		89.5		56.9		91.1
芸術・芸能関係の仕事		12.3		14.8		5.5		13.8		4.6
芸術・芸能以外の仕事		9.1		5.9		5.0		29.3		4.2
合計		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0

（注 1）月収について「1 億円以上」と回答した個人（4 名）は集計対象外とした。

（注 2）「制作の仕事」は「芸術芸能分野の制作の仕事（稽古等含む）」、「芸術・芸能関係の仕事」は「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事（制作技術講師等）」、「芸術・芸能以外の仕事」は「芸術・芸能分野以外の仕事」とそれぞれ対応する。

表3.2.6b 職種別月間収入

	芸術・芸能分野の その他の職種		実演家		芸術・芸能以外の 職業		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
芸術・芸能分野の制作の仕事								
10万円未満	1	3.6	5	12.5	2	28.6	48	10.9
10万円以上15万円未満	1	3.6	7	17.5	1	14.3	31	7.0
15万円以上20万円未満	4	14.3	2	5.0	1	14.3	20	4.5
20万円以上25万円未満	4	14.3	7	17.5	1	14.3	49	11.1
25万円以上30万円未満	4	14.3	2	5.0	0	0.0	31	7.0
30万円以上35万円未満	7	25.0	8	20.0	0	0.0	58	13.2
35万円以上40万円未満	5	17.9	0	0.0	1	14.3	28	6.3
40万円以上	2	7.1	9	22.5	1	14.3	176	39.9
合計	28	100.0	40	100.0	7	100.0	441	100.0
芸術・芸能分野の技術技能を生かした仕事（講師等）								
10万円未満	5	55.6	10	58.8	2	66.7	50	44.6
10万円以上15万円未満	0	0.0	2	11.8	0	0.0	17	15.2
15万円以上20万円未満	1	11.1	1	5.9	0	0.0	5	4.5
20万円以上25万円未満	1	11.1	2	11.8	0	0.0	7	6.3
25万円以上30万円未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.8
30万円以上35万円未満	0	0.0	1	5.9	0	0.0	6	5.4
35万円以上40万円未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.8
40万円以上	2	22.2	1	5.9	1	33.3	23	20.5
合計	9	100.0	17	100.0	3	100.0	112	100.0
芸術・芸能分野以外の仕事（注1）								
10万円未満	3	60.0	12	80.0	7	50.0	55	61.8
10万円以上15万円未満	0	0.0	1	6.7	0	0.0	7	7.9
15万円以上20万円未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.2
20万円以上25万円未満	1	20.0	1	6.7	1	7.1	7	7.9
25万円以上30万円未満	0	0.0	0	0.0	1	7.1	3	3.4
30万円以上35万円未満	1	20.0	0	0.0	1	7.1	3	3.4
35万円以上40万円未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40万円以上	0	0.0	1	6.7	4	28.6	12	13.5
合計	5	100.0	15	100.0	14	100.0	89	100.0
総月間収入（上記3種の合計値）（注1）								
10万円未満	1	3.4	8	17.0	7	36.8	61	12.3
10万円以上15万円未満	0	0.0	7	14.9	0	0.0	30	6.0
15万円以上20万円未満	3	10.3	3	6.4	2	10.5	26	5.2
20万円以上25万円未満	4	13.8	6	12.8	2	10.5	50	10.1
25万円以上30万円未満	3	10.3	3	6.4	1	5.3	37	7.5
30万円以上35万円未満	7	24.1	8	17.0	1	5.3	49	9.9
35万円以上40万円未満	6	20.7	1	2.1	1	5.3	34	6.9
40万円以上	5	17.2	11	23.4	5	26.3	209	42.1
合計	29	100.0	47	100.0	19	100.0	496	100.0
各種仕事の総月間収入に占める平均比率（注2）								
制作の仕事		83.7		71.6		30.0		79.5
芸術・芸能関係の仕事		10.1		14.6		5.5		10.8
芸術・芸能以外の仕事		6.2		13.7		64.4		9.7
合計		100.0		100.0		100.0		100.0

（注 1）月収について「1 億円以上」と回答した個人（4 名）は集計対象外とした。

（注 2）「制作の仕事」は「芸術芸能分野の制作の仕事（稽古等含む）」、「芸術・芸能分野関係の仕事」は「芸術・芸能分野の技術技能を活かした仕事（制作技術講師等）」、「芸術・芸能以外の仕事」は「芸術・芸能分野以外の仕事」とそれぞれ対応する。

3.3 メンタルヘルス・主観的幸福感・継続意欲

3.3.1 年齢階層別メンタルヘルスと主観的幸福感(表 3.3.1)

年齢階層別に、K6 スコア(6 設問の不安・抑うつ傾向に関する尺度)、主観的幸福感(1 点を「全く幸せでない」、10 点を「非常に幸せ」とした尺度)、ワーク・エンゲイジメント(仕事に対して活力・熱意・没頭感をもって仕事に取り組む頻度に関する尺度)について集計を行った。

K6 スコアが 10 点以上(うつ・不安障害の疑い(重度を含む))の者の割合は、30 代以下(42.9%)、40～50 代(28.8%)、60 代以上(11.8%)であった。

主観的幸福感が 5 点未満である割合は、30 代以下(17.3%)、40～50 代(13.6%)、60 代以上(10.5%)であった。

ワーク・エンゲイジメントについては、表中の「全くない」「ほとんど感じない」「めったに感じない」の合計割合を比較する。活力については、30 代以下(14.3%)、40～50 代(15.2%)、60 代以上(7.9%)であった。熱意については、30 代以下(10.1%)、40～50 代(7.3%)、60 代以上(2.6%)であった。没頭については、30 代以下(21.4%)、40～50 代(15.8%)、60 代以上(9.3%)であった。

3.3.2 職種別メンタルヘルスと主観的幸福感(表 3.3.2a, 表 3.3.2b)

職種別に、K6 スコア、主観的幸福感、ワーク・エンゲイジメントについて集計を行った。

職種別の K6 スコアが 10 点以上(うつ・不安障害の疑い(重度を含む))の者の割合は、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(30.7%)、技術スタッフ(29.7%)、舞台監督・制作関係・演出関係(31.9%)、脚本家・劇作家(52.6%)、校正者・組版・編集者(24.2%)、芸術・芸能分野のその他の職種(36.1%)、実演家(34.7%)、芸術・芸能以外の職業(26.0%)であった。

主観的幸福感が 5 点未満である割合は、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(12.9%)、技術スタッフ(12.6%)、舞台監督・制作関係・演出関係(13.6%)、脚

本家・劇作家(15.8%)、校正者・組版・編集者(17.6%)、芸術・芸能分野のその他の職種(19.5%)、実演家(14.2%)、芸術・芸能以外の職業(13.0%)であった。

ワーク・エンゲイジメントについては、表中の「全くない」「ほとんど感じない」「めったに感じない」の合計割合を比較する。活力については、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(8.0%)、技術スタッフ(14.3%)、舞台監督・制作関係・演出関係(24.2%)、脚本家・劇作家(10.6%)、校正者・組版・編集者(18.7%)、芸術・芸能分野のその他の職種(13.9%)、実演家(8.2%)、芸術・芸能以外の職業(4.3%)であった。熱意については、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(6.0%)、技術スタッフ(7.4%)、舞台監督・制作関係・演出関係(9.1%)、脚本家・劇作家(5.3%)、校正者・組版・編集者(13.2%)、芸術・芸能分野のその他の職種(5.6%)、実演家(2.0%)、芸術・芸能以外の職業(4.3%)であった。没頭については、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(10.9%)、技術スタッフ(18.4%)、舞台監督・制作関係・演出関係(19.7%)、脚本家・劇作家(5.3%)、校正者・組版・編集者(26.4%)、芸術・芸能分野のその他の職種(13.9%)、実演家(10.2%)、芸術・芸能以外の職業(8.6%)であった。

3.3.3 年齢階層別芸術・芸能分野の仕事に対する継続意欲(表 3.3.3)

年齢階層別に、芸術・芸能分野の仕事に対する継続意欲について集計を行った。

「仮に、一生の生活に困らないだけの経済的余裕が得られたら、芸術・芸能(制作)分野の仕事はどうしますか。」との設問に対しての回答を「仕事に対する継続意欲(経済的余裕下)」として集計を行った。30代以下では「働く時間を減らす」(50.3%)の割合が最も高かった。40～50代では「変わらず働く」(47.5%)と「働く時間を減らす」(46.5%)が僅差となった。60代以上では「変わらず働く」(56.6%)の割合が最も高かった。

「仮に、芸術・芸能(制作)分野の仕事だけで必要最低限の収入を得られる見込みが将来にわたってまったくないことが分かったら、どうしますか。」との設問に対しての回答を「仕事に対する継続意欲(経済的苦境下)」として集計を行った。30代以下

(47.9%)、40～50代(32.3%)で「働くのをやめる」の割合が最も高かった。一方、60代以上では「変わらず働く」(44.0%)の割合が最も高かった。

3.3.4 職種別芸術・芸能分野の仕事に対する継続意欲(表 3.3.4)

職種別に、芸術・芸能分野の仕事に対する継続意欲について集計を行った。

「仮に、一生の生活に困らないだけの経済的余裕が得られたら、芸術・芸能(制作)分野の仕事はどうしますか。」との設問に対し、「変わらず働く」と回答した者の割合が最も高かったのは、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(53.5%)、脚本家・劇作家(73.7%)、芸能・芸能分野のその他の職種(58.3%)、実演家(53.1%)、芸術・芸能以外の職業(69.6%)であった。「働く時間を減らす」と回答した者の割合は、技術スタッフ(52.0%)、舞台監督・制作関係・演出関係(58.5%)、校正者・組版・編集者(48.4%)で最も高くなった。

「仮に、芸術・芸能(制作)分野の仕事だけで必要最低限の収入を得られる見込みが将来にわたってまったくないことが分かったら、どうしますか。」との設問に対しては、「変わらず芸能業界で働く」と回答した者の割合は、脚本家・劇作家(52.6%)、実演家(32.7%)では最も高かった。一方、「芸術・芸能業界の仕事を減らす」と回答した者の割合は芸術・芸能分野のその他の職種(36.1%)で最も高かった。「わからない」を除くと、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(31.7%)、技術スタッフ(41.7%)、舞台監督・制作関係・演出関係(46.2%)、校正者・組版・編集者(27.8%)、芸術・芸能以外の職業(30.4%)で「転職する」と回答した者の割合が最も高かった。

表3.3.1 年齢階層別メンタルヘルスと主観的幸福感

	30代以下		40～50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
K6（不安・抑うつ傾向）								
0～4点 （うつ・不安障害の傾向なし）	50	29.8	142	44.9	50	65.8	242	43.2
5～9点 （うつ・不安障害の傾向あり）	46	27.4	83	26.3	17	22.4	146	26.1
10～12点 （うつ・不安障害の疑い）	29	17.3	47	14.9	3	3.9	79	14.1
13点以上 （重度のうつ・不安障害の疑い）	43	25.6	44	13.9	6	7.9	93	16.6
合計	168	100.0	316	100.0	76	100.0	560	100.0
主観的幸福感								
1～2点	7	4.2	11	3.5	2	2.6	20	3.6
3～4点	22	13.1	32	10.1	6	7.9	60	10.7
5～6点	39	23.2	52	16.5	13	17.1	104	18.6
7～8点	73	43.5	146	46.2	33	43.4	252	45.0
9～10点	27	16.1	75	23.7	22	28.9	124	22.1
合計	168	100.0	316	100.0	76	100.0	560	100.0
ワーク・エンゲイジメント(活力)								
全くない	2	1.2	6	1.9	0	0.0	8	1.4
ほとんど感じない	8	4.8	11	3.5	0	0.0	19	3.4
めったに感じない	14	8.3	31	9.8	6	7.9	51	9.1
時々感じる	80	47.6	138	43.7	33	43.4	251	44.8
よく感じる	41	24.4	74	23.4	20	26.3	135	24.1
とてもよく感じる	15	8.9	36	11.4	8	10.5	59	10.5
いつも感じる	8	4.8	20	6.3	9	11.8	37	6.6
合計	168	100.0	316	100.0	76	100.0	560	100.0
ワーク・エンゲイジメント(熱意)								
全くない	1	0.6	3	0.9	0	0.0	4	0.7
ほとんど感じない	4	2.4	4	1.3	0	0.0	8	1.4
めったに感じない	12	7.1	16	5.1	2	2.6	30	5.4
時々感じる	72	42.9	89	28.2	20	26.3	181	32.3
よく感じる	39	23.2	112	35.4	23	30.3	174	31.1
とてもよく感じる	19	11.3	55	17.4	17	22.4	91	16.3
いつも感じる	21	12.5	37	11.7	14	18.4	72	12.9
合計	168	100.0	316	100.0	76	100.0	560	100.0
ワーク・エンゲイジメント(没頭)								
全くない	2	1.2	11	3.5	2	2.7	15	2.7
ほとんど感じない	13	7.7	14	4.4	1	1.3	28	5.0
めったに感じない	21	12.5	25	7.9	4	5.3	50	8.9
時々感じる	61	36.3	101	32.0	29	38.7	191	34.2
よく感じる	35	20.8	84	26.6	20	26.7	139	24.9
とてもよく感じる	18	10.7	50	15.8	9	12.0	77	13.8
いつも感じる	18	10.7	31	9.8	10	13.3	59	10.6
合計	168	100.0	316	100.0	75	100.0	559	100.0

表3.3.2a 職種別メンタルヘルスと主観的幸福感

	映像監督・助監督・ 演出家・プロデューサー		技術スタッフ		舞台監督・制作関係 ・演出関係		脚本家・劇作家		校正者・組版 ・編集者	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
K6（不安・抑うつ傾向）										
0～4点 （うつ・不安障害の傾向なし）	42	41.6	69	39.4	31	47.0	8	42.1	43	47.3
5～9点 （うつ・不安障害の傾向あり）	28	27.7	54	30.9	14	21.2	1	5.3	26	28.6
10～12点 （うつ・不安障害の疑い）	12	11.9	22	12.6	11	16.7	5	26.3	11	12.1
13点以上 （重度のうつ・不安障害の疑い）	19	18.8	30	17.1	10	15.2	5	26.3	11	12.1
合計	101	100.0	175	100.0	66	100.0	19	100.0	91	100.0
主観的幸福感										
1～2点	3	3.0	7	4.0	2	3.0	1	5.3	4	4.4
3～4点	10	9.9	15	8.6	7	10.6	2	10.5	12	13.2
5～6点	20	19.8	41	23.4	12	18.2	2	10.5	9	9.9
7～8点	46	45.5	79	45.1	28	42.4	8	42.1	41	45.1
9～10点	22	21.8	33	18.9	17	25.8	6	31.6	25	27.5
合計	101	100.0	175	100.0	66	100.0	19	100.0	91	100.0
ワーク・エンゲイジメント(活力)										
全くない	1	1.0	2	1.1	1	1.5	0	0.0	1	1.1
ほとんど感じない	3	3.0	4	2.3	7	10.6	1	5.3	4	4.4
めったに感じない	4	4.0	19	10.9	8	12.1	1	5.3	12	13.2
時々感じる	55	54.5	71	40.6	26	39.4	4	21.1	52	57.1
よく感じる	17	16.8	45	25.7	14	21.2	7	36.8	16	17.6
とてもよく感じる	14	13.9	19	10.9	6	9.1	4	21.1	3	3.3
いつも感じる	7	6.9	15	8.6	4	6.1	2	10.5	3	3.3
合計	101	100.0	175	100.0	66	100.0	19	100.0	91	100.0
ワーク・エンゲイジメント(熱意)										
全くない	0	0.0	0	0.0	1	1.5	0	0.0	2	2.2
ほとんど感じない	1	1.0	2	1.1	1	1.5	1	5.3	2	2.2
めったに感じない	5	5.0	11	6.3	4	6.1	0	0.0	8	8.8
時々感じる	29	28.7	51	29.1	26	39.4	4	21.1	40	44.0
よく感じる	31	30.7	55	31.4	18	27.3	5	26.3	26	28.6
とてもよく感じる	20	19.8	28	16.0	7	10.6	3	15.8	9	9.9
いつも感じる	15	14.9	28	16.0	9	13.6	6	31.6	4	4.4
合計	101	100.0	175	100.0	66	100.0	19	100.0	91	100.0
ワーク・エンゲイジメント(没頭)										
全くない	1	1.0	3	1.7	2	3.0	0	0.0	6	6.6
ほとんど感じない	4	4.0	9	5.2	5	7.6	1	5.3	4	4.4
めったに感じない	6	5.9	20	11.5	6	9.1	0	0.0	14	15.4
時々感じる	31	30.7	49	28.2	28	42.4	6	31.6	39	42.9
よく感じる	30	29.7	45	25.9	11	16.7	5	26.3	18	19.8
とてもよく感じる	20	19.8	25	14.4	5	7.6	3	15.8	6	6.6
いつも感じる	9	8.9	23	13.2	9	13.6	4	21.1	4	4.4
合計	101	100.0	174	100.0	66	100.0	19	100.0	91	100.0

表3.3.2b 職種別メンタルヘルスと主観的幸福感

	芸術・芸能分野の その他の職種		実演家		芸術・芸能以外の 職業		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
K6（不安・抑うつ傾向）								
0～4点 （うつ・不安障害の傾向なし）	13	36.1	21	42.9	15	65.2	242	43.2
5～9点 （うつ・不安障害の傾向あり）	10	27.8	11	22.4	2	8.7	146	26.1
10～12点 （うつ・不安障害の疑い）	7	19.4	10	20.4	1	4.3	79	14.1
13点以上 （重度のうつ・不安障害の疑い）	6	16.7	7	14.3	5	21.7	93	16.6
合計	36	100.0	49	100.0	23	100.0	560	100.0
主観的幸福感								
1～2点	1	2.8	1	2.0	1	4.3	20	3.6
3～4点	6	16.7	6	12.2	2	8.7	60	10.7
5～6点	3	8.3	13	26.5	4	17.4	104	18.6
7～8点	20	55.6	20	40.8	10	43.5	252	45.0
9～10点	6	16.7	9	18.4	6	26.1	124	22.1
合計	36	100.0	49	100.0	23	100.0	560	100.0
ワーク・エンゲイジメント(活力)								
全くない	1	2.8	2	4.1	0	0.0	8	1.4
ほとんど感じない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	19	3.4
めったに感じない	4	11.1	2	4.1	1	4.3	51	9.1
時々感じる	9	25.0	24	49.0	10	43.5	251	44.8
よく感じる	18	50.0	12	24.5	6	26.1	135	24.1
とてもよく感じる	2	5.6	5	10.2	6	26.1	59	10.5
いつも感じる	2	5.6	4	8.2	0	0.0	37	6.6
合計	36	100.0	49	100.0	23	100.0	560	100.0
ワーク・エンゲイジメント(熱意)								
全くない	1	2.8	0	0.0	0	0.0	4	0.7
ほとんど感じない	0	0.0	0	0.0	1	4.3	8	1.4
めったに感じない	1	2.8	1	2.0	0	0.0	30	5.4
時々感じる	7	19.4	18	36.7	6	26.1	181	32.3
よく感じる	20	55.6	11	22.4	8	34.8	174	31.1
とてもよく感じる	5	13.9	12	24.5	7	30.4	91	16.3
いつも感じる	2	5.6	7	14.3	1	4.3	72	12.9
合計	36	100.0	49	100.0	23	100.0	560	100.0
ワーク・エンゲイジメント(没頭)								
全くない	1	2.8	2	4.1	0	0.0	15	2.7
ほとんど感じない	3	8.3	1	2.0	1	4.3	28	5.0
めったに感じない	1	2.8	2	4.1	1	4.3	50	8.9
時々感じる	11	30.6	17	34.7	10	43.5	191	34.2
よく感じる	11	30.6	13	26.5	6	26.1	139	24.9
とてもよく感じる	6	16.7	9	18.4	3	13.0	77	13.8
いつも感じる	3	8.3	5	10.2	2	8.7	59	10.6
合計	36	100.0	49	100.0	23	100.0	559	100.0

表3.3.3 年齢階層別芸術・芸能分野の仕事に対する継続意欲

	30代以下		40～50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
仕事に対する継続意欲(経済的余裕下)								
変わらず働く	64	38.3	150	47.5	43	56.6	257	46.0
働く時間を減らす	84	50.3	147	46.5	24	31.6	255	45.6
働くのをやめる	12	7.2	14	4.4	8	10.5	34	6.1
わからない	7	4.2	5	1.6	1	1.3	13	2.3
合計	167	100.0	316	100.0	76	100.0	559	100.0
仕事に対する継続意欲(経済的苦境下)								
変わらず働く	19	11.4	61	19.3	33	44.0	113	20.3
働く時間を減らす	39	23.4	92	29.1	12	16.0	143	25.6
働くのをやめる	80	47.9	102	32.3	10	13.3	192	34.4
わからない	29	17.4	61	19.3	20	26.7	110	19.7
合計	167	100.0	316	100.0	75	100.0	558	100.0

表3.3.4 職種別芸術・芸能分野の仕事に対する継続意欲

	映像監督・助監督・ 演出家・プロデューサー		技術スタッフ		舞台監督・制作関係 ・演出関係		脚本家・劇作家		校正者・組版 ・編集者	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
仕事に対する継続意欲(経済的余裕下)										
変わらず働く	54	53.5	63	36.0	21	32.3	14	73.7	42	46.2
働く時間を減らす	42	41.6	91	52.0	38	58.5	5	26.3	44	48.4
働くのをやめる	3	3.0	15	8.6	5	7.7	0	0.0	4	4.4
わからない	2	2.0	6	3.4	1	1.5	0	0.0	1	1.1
合計	101	100.0	175	100.0	65	100.0	19	100.0	91	100.0
仕事に対する継続意欲(経済的苦境下)										
変わらず芸術・芸能業界で働く	21	20.8	24	13.7	8	12.3	10	52.6	19	21.1
芸術・芸能業界の仕事を減らす	30	29.7	44	25.1	22	33.8	5	26.3	18	20.0
転職する	32	31.7	73	41.7	30	46.2	3	15.8	25	27.8
わからない	18	17.8	34	19.4	5	7.7	1	5.3	28	31.1
合計	101	100.0	175	100.0	65	100.0	19	100.0	90	100.0

	芸術・芸能分野の その他の職種		実演家		芸術・芸能以外の 職業		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
仕事に対する継続意欲(経済的余裕下)								
変わらず働く	21	58.3	26	53.1	16	69.6	257	46.0
働く時間を減らす	10	27.8	20	40.8	5	21.7	255	45.6
働くのをやめる	4	11.1	3	6.1	0	0.0	34	6.1
わからない	1	2.8	0	0.0	2	8.7	13	2.3
合計	36	100.0	49	100.0	23	100.0	559	100.0
仕事に対する継続意欲(経済的苦境下)								
変わらず芸術・芸能業界で働く	10	27.8	16	32.7	5	21.7	113	20.3
芸術・芸能業界の仕事を減らす	13	36.1	9	18.4	2	8.7	143	25.6
転職する	8	22.2	14	28.6	7	30.4	192	34.4
わからない	5	13.9	10	20.4	9	39.1	110	19.7
合計	36	100.0	49	100.0	23	100.0	558	100.0

3.4 心理的負荷のある出来事の経験

本節では、仕事の場において心理的負荷となり得る出来事を 30 項目列挙し、経験の有無を尋ねた結果を概説する。この質問は、過去 1 年間の経験等と限定していないため、在職全てでの経験を答える者と直近で起きた出来事のみを答える者の回答が混在している点に注意が必要である。

3.4.1 年齢階層別心理的負荷のある出来事の経験(表 3.4.1)

年齢階層別に、30 項目の心理的負荷のある出来事の経験割合について集計を行った。

年齢階層別で 25%を超えた項目数は、30 代以下では 16 項目、40～50 代では 13 項目、60 代以上では 9 項目と、年齢階層が高いものほど心理的負荷のある出来事に直面していない傾向にあった。

30 代以下の 16 項目は、「仕事の関係者とトラブルになった」(49.4%)、「自分の仕事为他人の成果として評価されたことがある」(38.1%)、「仕事上の友人と腹を割って話せない」(28.6%)、「付き合いたくない人と付き合わなければならない」(65.5%)、「頼れる人が身近にいない」(31.5%)、「支給される食事(ロケ弁等)が脂っこい」(27.4%)、「仕事中に休憩を取れないことが多い」(47.0%)、「休日や早朝深夜にも働く必要がある」(77.4%)、「仕事を受ける前に報酬額を提示されない」(50.6%)、「発注取り消しを急に言われることがある」(33.9%)、「無理のある納期を求められた」(38.7%)、「事前に聞かされていない、許容しがたい業務を求められることがある」(37.5%)、「業界の慣習で言いたいことを自由に言えない」(35.1%)、「次の仕事があるか不安である」(49.4%)、「仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた」(45.8%)、「同僚や仲間が音信不通になったり、突然仕事の現場に来なくなることがあった」(47.0%)であった。

40～50 代の 13 項目は、「仕事の関係者とトラブルになった」(44.0%)、「自分の仕事为他人の成果として評価されたことがある」(37.3%)、「付き合いたくない人と付き合わなければならない」(48.7%)、「仕事中に休憩を取れないことが多い」

(38.0%)、「休日や早朝深夜にも働く必要がある」(70.9%)、「仕事を受ける前に報酬額を提示されない」(51.9%)、「発注取り消しを急に言われることがある」(33.2%)、「無理のある納期を求められた」(35.1%)、「事前に聞かされていない、許容しがたい業務を求められることがある」(27.5%)、「業界の慣習で言いたいことを自由に言えない」(25.9%)、「次の仕事があるか不安である」(49.7%)、「仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた」(39.6%)、「同僚や仲間が音信不通になったり、突然仕事の現場に来なくなることがあった」(39.6%)であった。

60代以上の9項目は「仕事の関係者とトラブルになった」(43.4%)、「付き合いたくない人と付き合わなければならない」(42.1%)、「工作中に休憩を取れないことが多い」(26.3%)、「休日や早朝深夜にも働く必要がある」(63.2%)、「仕事を受ける前に報酬額を提示されない」(40.8%)、「発注取り消しを急に言われることがある」(32.9%)、「無理のある納期を求められた」(28.9%)、「次の仕事があるか不安である」(50.0%)、「同僚や仲間が音信不通になったり、突然仕事の現場に来なくなることがあった」(32.9%)であった。

3.4.2 職種別心理的負荷のある出来事の実験(表 3.4.2a, 表 3.4.2b)

職種別に、30項目の心理的負荷のある出来事の実験割合について集計を行った。

25%を超えていた項目数の多さでは、技術スタッフ(19項目)、舞台監督・制作関係・演出関係(18項目)、脚本家・劇作家(15項目)、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(13項目)、芸術・芸能分野のその他の職種(12項目)、実演家(12項目)、校正者・組版・編集者(8項目)、芸術・芸能以外の職業(6項目)の順であった。

全職種で25%を超えていた項目は、「仕事の関係者とトラブルになった」、「付き合いたくない人と付き合わなければならない」、「休日や早朝深夜にも働く必要がある」、「次の仕事があるか不安である」であった。

3.4.3 年齢階層・性別セクハラ関連出来事の実験(表 3.4.3)

年齢階層・性別に、30 項目の心理的負荷のある出来事のうちセクハラ事案と考えられる、「仕事の関係者に必要以上に身体を触られた」、「性的関係を迫られた」という出来事の実験割合と、いずれかでも実験した割合について集計を行った。

男性において一つでも実験をした割合については、30 代以下(4.5%)、40～50 代(2.1%)、60 代以(2.0%)であった。

女性全体で「仕事の関係者に必要以上に身体を触られた」の割合は 1 割程度(8.6%)であった。「性的関係を迫られた」の実験割合は男性(1.8%)に対して女性(5.0%)であった。女性において一つでも実験をした割合は、30 代以下(12.0%)、40～50 代(9.9%)、60 代以上(0.0%)であった。

3.4.4 職種別セクハラ関連出来事の実験(表 3.4.4)

職種別に、セクハラ事案と考えられる出来事の実験割合と、どれか一つでも実験した割合について集計を行った。

職種別に 5%を超えた出来事に着目する。脚本家・劇作家、芸術・芸能分野のその他の職業ではいずれの項目でも 5%を超えていた。

職種別に一つでも実験をした割合は芸術・芸能分野のその他の職種(11.1%)、実演家(8.2%)、技術スタッフ(6.9%)、舞台監督・制作関係・演出関係(6.1%)、映像監督・助監督・演出家・プロデューサー(5.0%)、脚本家・劇作家(5.3%)、校正者・組版・編集者(4.4%)の順であった。

表3.4.1 年齢階層別心理的負荷のある出来事の実験

	30代以下	40～50代	60代以上	全体
仕事の関係者とトラブルになった	49.4	44.0	43.4	45.5
自分の仕事为他人の成果として評価されたことがある	38.1	37.3	22.4	35.5
仕事上の友人と腹を割って話せない	28.6	21.5	10.5	22.1
付き合いたくない人と付き合いなければならない	65.5	48.7	42.1	52.9
頼れる人が身近にいない	31.5	25.0	18.4	26.1
支給される食事（ロケ弁等）が脂っこい	27.4	21.8	15.8	22.7
仕事中に休憩を取れないことが多い	47.0	38.0	26.3	39.1
休日や早朝深夜にも働く必要がある	77.4	70.9	63.2	71.8
仕事を受ける前に提示された報酬額どおりに支払われなかった	18.5	20.9	9.2	18.6
仕事を受ける前に報酬額を提示されない	50.6	51.9	40.8	50.0
発注取り消しを急に言われることがある	33.9	33.2	32.9	33.4
無理のある納期を求められた	38.7	35.1	28.9	35.4
事前に聞かされていない、許容しがたい業務を求められることがある	37.5	27.5	19.7	29.5
仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない	6.5	9.2	7.9	8.2
自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない	15.5	9.2	6.6	10.7
業界の慣習で言いたいことを自由に言えない	35.1	25.9	13.2	27.0
次の仕事があるか不安である	49.4	49.7	50.0	49.6
視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である	15.5	17.4	10.5	15.9
怪我や急病時に必要な対応をしてもらえなかった	8.3	7.6	9.2	8.0
高所、低所等の危険を感じる場面や場所での作業・設営をしなければならない	14.3	16.5	10.5	15.0
不自然な姿勢を長時間取らなければならない	21.4	14.6	11.8	16.3
自分の仕事場の安全衛生管理者（仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人）が誰か分からない	22.6	21.5	17.1	21.3
着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした	3.6	8.2	2.6	6.1
尿意を催しても我慢しなければならない	16.1	18.0	14.5	17.0
仕事の関係者から殴られた、蹴られた、叩かれた、または怒鳴られた	24.4	21.5	9.2	20.7
仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた	45.8	39.6	25.0	39.5
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	6.0	4.7	1.3	4.6
性的関係を迫られた	3.6	3.5	2.6	3.4
同僚や仲間が音信不通になったり、突然仕事の現場に来なくなることがあった	47.0	39.6	32.9	40.9
同僚や仲間が自殺した	9.5	10.4	9.2	10.0
n	168	316	76	560

表3.4.2a 職種別心理的負荷のある出来事の実験

	映像監督・ 助監督・ 演出家・ プロデューサー	技術スタッフ	舞台監督・ 制作関係・ 演出関係	脚本家・ 劇作家	校正者・ 組版・ 編集者
仕事の関係者とトラブルになった	56.4	45.1	51.5	73.7	30.8
自分の仕事为他人の成果として評価されたことがある	47.5	33.7	47.0	47.4	15.4
仕事上の友人と腹を割って話せない	16.8	22.9	27.3	21.1	19.8
付き合いたくない人と付き合いなければならない	62.4	56.6	60.6	57.9	30.8
頼れる人が身近にいない	14.9	26.3	22.7	10.5	44.0
支給される食事（ロケ弁等）が脂っこい	20.8	38.3	27.3	10.5	1.1
仕事中に休憩を取れないことが多い	37.6	58.3	57.6	26.3	11.0
休日や早朝深夜にも働く必要がある	76.2	85.1	83.3	73.7	53.8
仕事を受ける前に提示された報酬額どおりに支払われなかった	17.8	24.6	16.7	52.6	8.8
仕事を受ける前に報酬額を提示されない	48.5	58.3	53.0	78.9	44.0
発注取り消しを急に言われることがある	31.7	48.6	39.4	57.9	11.0
無理のある納期を求められた	33.7	37.1	28.8	47.4	41.8
事前に聞かされていない、許容しがたい業務を求められることがある	26.7	36.0	37.9	31.6	20.9
仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない	2.0	15.4	7.6	10.5	4.4
自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない	8.9	9.1	9.1	10.5	13.2
業界の慣習で言いたいことを自由に言えない	20.8	34.9	28.8	36.8	15.4
次の仕事があるか不安である	49.5	57.7	39.4	52.6	48.4
視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である	33.7	6.3	18.2	47.4	1.1
怪我や急病時に必要な対応をしてもらえなかった	5.9	9.1	10.6	5.3	6.6
高所、低所等の危険を感じる場面や場所での作業・設営をしなければならない	8.9	23.4	33.3	15.8	0.0
不自然な姿勢を長時間取らなければならない	6.9	26.3	21.2	10.5	11.0
自分の仕事場の安全衛生管理者（仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人）が誰か分からない	18.8	29.1	24.2	5.3	14.3
着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした	2.0	10.3	16.7	0.0	0.0
尿意を催しても我慢しなければならない	10.9	32.0	25.8	5.3	0.0
仕事の関係者から殴られた、蹴られた、叩かれた、または怒鳴られた	18.8	29.7	34.8	10.5	4.4
仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた	39.6	49.1	48.5	52.6	20.9
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	2.0	5.1	6.1	5.3	4.4
性的関係を迫られた	3.0	4.6	3.0	5.3	0.0
同僚や仲間が音信不通になったり、突然仕事の現場に来なくなることがあった	51.5	44.0	56.1	26.3	28.6
同僚や仲間が自殺した	8.9	10.3	21.2	21.1	2.2
n	101	175	66	19	91

表3.4.2b 職種別心理的負荷のある出来事の実験

	芸術・ 芸能分野の その他の職種	実演家	芸術・芸能 以外の職業	全体
仕事の関係者とトラブルになった	50.0	38.8	26.1	45.5
自分の仕事为他人の成果として評価されたことがある	55.6	28.6	17.4	35.5
仕事上の友人と腹を割って話せない	33.3	28.6	4.3	22.1
付き合いたくない人と付き合いなければならない	61.1	49.0	39.1	52.9
頼れる人が身近にいない	22.2	30.6	21.7	26.1
支給される食事（ロケ弁等）が脂っこい	19.4	22.4	0.0	22.7
仕事中に休憩を取れないことが多い	36.1	20.4	13.0	39.1
休日や早朝深夜にも働く必要がある	66.7	51.0	39.1	71.8
仕事を受ける前に提示された報酬額どおりに支払われなかった	13.9	18.4	0.0	18.6
仕事を受ける前に報酬額を提示されない	22.2	51.0	26.1	50.0
発注取り消しを急に言われることがある	25.0	26.5	4.3	33.4
無理のある納期を求められた	30.6	38.8	13.0	35.4
事前に聞かされていない、許容しがたい業務を求められることがある	36.1	16.3	17.4	29.5
仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない	8.3	6.1	0.0	8.2
自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない	22.2	10.2	8.7	10.7
業界の慣習で言いたいことを自由に言えない	30.6	34.7	4.3	27.0
次の仕事があるか不安である	33.3	55.1	34.8	49.6
視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である	25.0	20.4	13.0	15.9
怪我や急病時に必要な対応をしてもらえなかった	13.9	6.1	4.3	8.0
高所、低所等の危険を感じる場面や場所での作業・設営をしなければならない	13.9	6.1	4.3	15.0
不自然な姿勢を長時間取らなければならない	16.7	10.2	4.3	16.3
自分の仕事場の安全衛生管理者（仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人）が誰か分からない	19.4	18.4	13.0	21.3
着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした	5.6	2.0	0.0	6.1
尿意を催しても我慢しなければならない	19.4	6.1	0.0	17.0
仕事の関係者から殴られた、蹴られた、叩かれた、または怒鳴られた	25.0	10.2	8.7	20.7
仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた	50.0	26.5	13.0	39.5
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	5.6	8.2	0.0	4.6
性的関係を迫られた	8.3	4.1	0.0	3.4
同僚や仲間が音信不通になったり、突然仕事の現場に来なくなることがあった	38.9	24.5	26.1	40.9
同僚や仲間が自殺した	13.9	4.1	8.7	10.0
n	36	49	23	560

表3.4.3 年齢階層・性別セクハラ関連出来事の実験割合

	30代以下 男性	40～50代 男性	60代以上 男性	男性全体
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	2.3	1.0	0.0	1.2
性的関係を迫られた	2.3	1.6	2.0	1.8
上記セクハラ関連経験を1つでも経験した	4.5	2.1	2.0	2.7
n	88	191	49	328

	30代以下 女性	40～50代 女性	60代以上 女性	女性全体
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	10.7	9.1	0.0	8.6
性的関係を迫られた	4.0	6.6	0.0	5.0
上記セクハラ関連経験を1つでも経験した	12.0	9.9	0.0	9.5
n	75	121	26	222

表3.4.4 職種別セクハラ関連出来事の実験割合

	映像監督・ 助監督・ 演出家・ プロデューサー	技術スタッフ	舞台監督・ 制作関係・ 演出関係	脚本家・ 劇作家	校正者・ 組版・ 編集者
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	2.0	5.1	6.1	5.3	4.4
性的関係を迫られた	3.0	4.6	3.0	5.3	0.0
上記セクハラ関連経験を1つでも経験した	5.0	6.9	6.1	5.3	4.4
n	101	175	66	19	91

	芸術・芸能分野 の その他の職種	実演家	芸術・芸能 以外の職業	全体
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	5.6	8.2	0.0	4.6
性的関係を迫られた	8.3	4.1	0.0	3.4
上記セクハラ関連経験を1つでも経験した	11.1	8.2	0.0	6.1
n	36	49	23	560

3.5 工作中的ケガの有無(表 3.5.1, 表 3.5.2)

工作中的ケガの有無と、それにより休んだ日数について集計を行った。

年齢層別で「工作中にケガをした」割合は、30 代以下(20.2%)、40～50 代(11.5%)、60 代以上(13.1%)となった。また、ケガによって仕事を 4 日以上休んだ割合は、30 代以下(1.2%)、40～50 代(2.9%)、60 代以上(3.9%)となった。

職種別で「工作中にケガをした」割合は、舞台監督・制作関係・演出関係(24.2%)、芸能・芸術分野のその他の職種(19.5%)、技術スタッフ(18.3%)が全体 (14.3%)よりも割合が高かった。

表3.5.1 年齢階層別工作中的ケガの有無

	30代以下		40～50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
工作中にケガをしなかった	134	79.8	279	88.6	66	86.8	479	85.7
工作中にケガをした	34	20.2	36	11.5	10	13.1	80	14.3
仕事を休んだのは4日未満だった	32	19.0	27	8.6	7	9.2	66	11.8
仕事を4日以上休んだ	2	1.2	9	2.9	3	3.9	14	2.5
合計	168	100.0	315	100.0	76	100.0	559	100.0

表3.5.2 職種別工作中的ケガの有無

	映像監督・助監督・ 演出家・プロデューサー		技術スタッフ		舞台監督・制作関係 ・演出関係		脚本家・劇作家		校正者・組版 ・編集者	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
工作中にケガをしなかった	88	87.1	143	81.7	50	75.8	18	94.7	87	96.7
工作中にケガをした	13	12.9	32	18.3	16	24.2	1	5.3	3	3.3
仕事を休んだのは4日未満だった	11	10.9	25	14.3	15	22.7	1	5.3	3	3.3
仕事を4日以上休んだ	2	2.0	7	4.0	1	1.5	0	0.0	0	0.0
合計	101	100.0	175	100.0	66	100.0	19	100.0	90	100.0

	芸能・芸能分野の その他の職種		実演家		芸能・芸能以外の 職業		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
工作中にケガをしなかった	29	80.6	42	85.7	22	95.7	479	85.7
工作中にケガをした	7	19.5	7	14.2	1	4.3	80	14.3
仕事を休んだのは4日未満だった	5	13.9	6	12.2	0	0.0	66	11.8
仕事を4日以上休んだ	2	5.6	1	2.0	1	4.3	14	2.5
合計	36	100.0	49	100.0	23	100.0	559	100.0

3.6 ケイパビリティ(表 3.6)

本章では、ケイパビリティ(厚生の機会と自由の豊かさ)について、ICECAP-A 尺度(成人用ケイパビリティ)によって評価した結果を概説する。「安心・安定」、「愛情・友情・支援」、「自立」、「達成感・成長」、「楽しみ・喜び」の 5 項目を、機会や自由が豊かな順に 4～1 点と得点化した。

最高得点(豊かさ高)の 4 点の割合は、「安心・安定」(8.8%)、「愛情・友情・支援」(20.4%)、「自立」(23.1%)、「達成感・成長」(4.1%)、「楽しみ・喜び」(12.9%)であった。

表3.6 ケイパビリティ(厚生の機会と自由の豊かさ)

	安心・安定		愛情・友情・支援		自立		達成感・成長		楽しみ・喜び	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
4点	49	8.8	114	20.4	129	23.1	23	4.1	72	12.9
3点	258	46.1	251	44.8	247	44.2	218	38.9	255	45.5
2点	205	36.6	162	28.9	162	29.0	284	50.7	215	38.4
1点	48	8.6	33	5.9	21	3.8	35	6.3	18	3.2
合計	560	100.0	560	100.0	559	100.0	560	100.0	560	100.0

3.7 睡眠時間

3.7.1 年齢階層別睡眠時間(表 3.7.1)

年齢階層別では、30 代以下(39.9%)、40～50 代 (36.4%)、60 代以上(48.7%)のいずれの年齢階層でも「6～7 時間未満」が最も割合の高い睡眠時間となった。なお、5 時間未満は、30 代以下(11.9%)、40～50 代(11.4%)、60 代以上(13.2%)となった。

3.7.2 職種別睡眠時間(表 3.7.2)

職種別に睡眠時間を確認すると、技術スタッフを除く職種では「6～7 時間未満」が最も割合の高い睡眠時間となった。技術スタッフは「5～6 時間未満」(33.7%)が最も割合が高かった。なお、5 時間未満の割合が 10%以上となった職種は、技術スタッフ(19.4%)、舞台監督・制作関係・演出関係(12.1%)、芸術・芸能分野のその他の職種(16.7%)であった。

表3.7.1 年齢階層別睡眠時間

	30代以下		40～50代		60代以上		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
5時間未満	20	11.9	36	11.4	10	13.2	66	11.8
5～6時間未満	44	26.2	99	31.3	20	26.3	163	29.1
6～7時間未満	67	39.9	115	36.4	37	48.7	219	39.1
7～8時間未満	25	14.9	53	16.8	6	7.9	84	15.0
8～9時間未満	11	6.5	8	2.5	3	3.9	22	3.9
9時間以上	1	0.6	5	1.6	0	0.0	6	1.1
合計	168	100.0	316	100.0	76	100.0	560	100.0

表3.7.2 職種別睡眠時間

	映像監督・助監督・ 演出家・プロデューサー		技術スタッフ		舞台監督・制作関係 ・演出関係		脚本家・劇作家		校正者・組版・編集者	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
5時間未満	10	9.9	34	19.4	8	12.1	1	5.3	3	3.3
5～6時間未満	32	31.7	59	33.7	13	19.7	5	26.3	21	23.1
6～7時間未満	40	39.6	54	30.9	26	39.4	9	47.4	48	52.7
7～8時間未満	14	13.9	23	13.1	11	16.7	4	21.1	13	14.3
8～9時間未満	4	4.0	3	1.7	8	12.1	0	0.0	3	3.3
9時間以上	1	1.0	2	1.1	0	0.0	0	0.0	3	3.3
合計	101	100.0	175	100.0	66	100.0	19	100.0	91	100.0

	芸術・芸能分野の その他の職種		実演家		芸術・芸能以外の職業		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
5時間未満	6	16.7	2	4.1	2	8.7	66	11.8
5～6時間未満	9	25.0	16	32.7	8	34.8	163	29.1
6～7時間未満	14	38.9	20	40.8	8	34.8	219	39.1
7～8時間未満	7	19.4	7	14.3	5	21.7	84	15.0
8～9時間未満	0	0.0	4	8.2	0	0.0	22	3.9
9時間以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	1.1
合計	36	100.0	49	100.0	23	100.0	560	100.0

4 各種状況別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間

本章では、各種状況(制作の仕事の所得と時間の配分比率・仕事の継続意欲・総拘束時間)別にメンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間の状況についての検討結果を概説する。

4.1 制作の仕事による収入比率・週拘束時間の配分比率別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間

4.1.1 制作の仕事の収入比率別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間(表 4.1.1)

制作の仕事の収入比率別に、メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間について集計した。

K6 スコアが 10 点以上(うつ・不安障害の疑い(重度を含む))の者の割合は、「25%以上 50%未満」(54.9%)が最も高かった。

主観的幸福感 5 点未満の割合についても「25%以上 50%未満」(22.6%)が最も高かった。

睡眠時間が「5 時間未満」の割合は、「50%以上 75%未満」(17.5%)が最も高かった。

4.1.2 制作の仕事の拘束時間比率別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間(表 4.1.2)

制作の仕事の拘束時間比率別にメンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間について集計を行った。

K6 スコアが 10 点以上(うつ・不安障害の疑い(重度を含む))の者の割合は、「制作の仕事に時間を割かない」(16.3%)、「拘束時間 25%未満(0%を除く)」(31.3%)、「同 25%以上 50%未満」(47.8%)、「同 50%以上 75%未満」(29.8%)、「同 75%以上 100%未満」(39.7%)、「制作の仕事に全仕事時間を費やす」(27.3%)であった。

1 点を「全く幸せでない」、10 点を「非常に幸せ」として回答を行う主観的幸福感が 5 点未満の割合は、「制作の仕事に時間を割かない」(18.7%)、「拘束時間 25%未満(0%を除く)」(12.5%)、「同 25%以上 50%未満」(21.7%)、「同 50%以上 75%未満」(14.9%)、「同 75%以上 100%未満」(9.5%)、「制作の仕事に全仕事時間を費やす」(13.1%)であった。

睡眠時間が「5 時間未満」の割合は、「制作の仕事に時間を割かない」(11.6%)、「拘束時間 25%未満(0%を除く)」(12.5%)、「同 25%以上 50%未満」(8.7%)、「同 50%以上 75%未満」(6.4%)、「同 75%以上 100%未満」(12.7%)、「制作の仕事に全仕事時間を費やす」(9.8%)であった。

表4.1.1 制作の仕事の収入比率別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間

	制作の仕事から収入を得ていない (0%)		25%未満 (0%を除く)		25%以上 50%未満		50%以上 75%未満		75%以上 100%未満		制作の仕事から 全収入を得てい る (100%)		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
K6 (不安・抑うつ傾向)														
0～4点 (うつ・不安障害の傾向 なし)	26	47.3	3	60.0	7	22.6	21	52.5	20	45.5	141	43.9	218	44.0
5～9点 (うつ・不安障害の傾向 あり)	14	25.5	1	20.0	7	22.6	9	22.5	7	15.9	88	27.4	126	25.4
10～12点 (うつ・不安障 害の疑い)	7	12.7	1	20.0	7	22.6	5	12.5	10	22.7	43	13.4	73	14.7
13点以上 (重度のうつ・不安障害 の疑い)	8	14.5	0	0.0	10	32.3	5	12.5	7	15.9	49	15.3	79	15.9
合計	55	100.0	5	100.0	31	100.0	40	100.0	44	100.0	321	100.0	496	100.0
主観的幸福感														
1～2点	2	3.6	0	0.0	1	3.2	0	0.0	0	0.0	14	4.4	17	3.4
3～4点	8	14.5	0	0.0	6	19.4	4	10.0	5	11.4	27	8.4	50	10.1
5～6点	7	12.7	0	0.0	6	19.4	6	15.0	6	13.6	67	20.9	92	18.5
7～8点	27	49.1	4	80.0	13	41.9	17	42.5	23	52.3	142	44.2	226	45.6
9～10点	11	20.0	1	20.0	5	16.1	13	32.5	10	22.7	71	22.1	111	22.4
合計	55	100.0	5	100.0	31	100.0	40	100.0	44	100.0	321	100.0	496	100.0
睡眠時間														
5時間未満	6	10.9	0	0.0	4	12.9	7	17.5	7	15.9	33	10.3	57	11.5
5～6時間未満	21	38.2	1	20.0	12	38.7	9	22.5	14	31.8	91	28.3	148	29.8
6～7時間未満	19	34.5	1	20.0	8	25.8	14	35.0	15	34.1	135	42.1	192	38.7
7～8時間未満	9	16.4	2	40.0	6	19.4	7	17.5	4	9.1	46	14.3	74	14.9
8～9時間未満	0	0.0	1	20.0	1	3.2	2	5.0	4	9.1	13	4.0	21	4.2
9時間以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.5	0	0.0	3	0.9	4	0.8
合計	55	100.0	5	100.0	31	100.0	40	100.0	44	100.0	321	100.0	496	100.0

表4.1.2 制作の仕事の拘束時間比率別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間

	制作の仕事に時間割 かない (0%)		25%未満 (0%を除く)		25%以上 50%未満		50%以上 75%未満		75%以上 100%未満		制作の仕事に全仕 事時間を費やす (100%)		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
K6 (不安・抑うつ傾向)														
0～4点 (うつ・不安障害の傾 向なし)	20	46.5	10	62.5	8	34.8	23	48.9	28	44.4	132	44.4	221	45.2
5～9点 (うつ・不安障害の傾 向あり)	16	37.2	1	6.3	4	17.4	10	21.3	10	15.9	84	28.3	125	25.6
10～12点 (うつ・不安 障害の疑い)	2	4.7	3	18.8	2	8.7	6	12.8	14	22.2	37	12.5	64	13.1
13点以上 (重度のうつ・不安障 害の疑い)	5	11.6	2	12.5	9	39.1	8	17.0	11	17.5	44	14.8	79	16.2
合計	43	100.0	16	100.0	23	100.0	47	100.0	63	100.0	297	100.0	489	100.0
主観的幸福感														
1～2点	2	4.7	0	0.0	1	4.3	0	0.0	2	3.2	12	4.0	17	3.5
3～4点	6	14.0	2	12.5	4	17.4	7	14.9	4	6.3	27	9.1	50	10.2
5～6点	6	14.0	0	0.0	6	26.1	8	17.0	11	17.5	55	18.5	86	17.6
7～8点	20	46.5	11	68.8	7	30.4	21	44.7	29	46.0	134	45.1	222	45.4
9～10点	9	20.9	3	18.8	5	21.7	11	23.4	17	27.0	69	23.2	114	23.3
合計	43	100.0	16	100.0	23	100.0	47	100.0	63	100.0	297	100.0	489	100.0
睡眠時間														
5時間未満	5	11.6	2	12.5	2	8.7	3	6.4	8	12.7	29	9.8	49	10.0
5～6時間未満	18	41.9	3	18.8	5	21.7	15	31.9	20	31.7	86	29.0	147	30.1
6～7時間未満	12	27.9	7	43.8	10	43.5	18	38.3	25	39.7	126	42.4	198	40.5
7～8時間未満	8	18.6	3	18.8	4	17.4	9	19.1	7	11.1	40	13.5	71	14.5
8～9時間未満	0	0.0	1	6.3	2	8.7	1	2.1	3	4.8	13	4.4	20	4.1
9時間以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.1	0	0.0	3	1.0	4	0.8
合計	43	100.0	16	100.0	23	100.0	47	100.0	63	100.0	297	100.0	489	100.0

	制作の仕事から収入を得ていない (0%)		25%未満 (0%を除く)		25%以上 50%未満		50%以上 75%未満		75%以上 100%未満		制作の仕事から全収入を得ている (100%)		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
K6 (不安・抑うつ傾向)														
0～4点 (うつ・不安障害の傾向なし)	26	47.3	3	60.0	7	22.6	21	52.5	20	45.5	141	43.9	218	44.0
5～9点 (うつ・不安障害の傾向あり)	14	25.5	1	20.0	7	22.6	9	22.5	7	15.9	88	27.4	126	25.4
10～12点 (うつ・不安障害の疑い)	7	12.7	1	20.0	7	22.6	5	12.5	10	22.7	43	13.4	73	14.7
13点以上 (重度のうつ・不安障害の疑い)	8	14.5	0	0.0	10	32.3	5	12.5	7	15.9	49	15.3	79	15.9
合計	55	100.0	5	100.0	31	100.0	40	100.0	44	100.0	321	100.0	496	100.0
主観的幸福感														
1～2点	2	3.6	0	0.0	1	3.2	0	0.0	0	0.0	14	4.4	17	3.4
3～4点	8	14.5	0	0.0	6	19.4	4	10.0	5	11.4	27	8.4	50	10.1
5～6点	7	12.7	0	0.0	6	19.4	6	15.0	6	13.6	67	20.9	92	18.5
7～8点	27	49.1	4	80.0	13	41.9	17	42.5	23	52.3	142	44.2	226	45.6
9～10点	11	20.0	1	20.0	5	16.1	13	32.5	10	22.7	71	22.1	111	22.4
合計	55	100.0	5	100.0	31	100.0	40	100.0	44	100.0	321	100.0	496	100.0
睡眠時間														
5時間未満	6	10.9	0	0.0	4	12.9	7	17.5	7	15.9	33	10.3	57	11.5
5～6時間未満	21	38.2	1	20.0	12	38.7	9	22.5	14	31.8	91	28.3	148	29.8
6～7時間未満	19	34.5	1	20.0	8	25.8	14	35.0	15	34.1	135	42.1	192	38.7
7～8時間未満	9	16.4	2	40.0	6	19.4	7	17.5	4	9.1	46	14.3	74	14.9
8～9時間未満	0	0.0	1	20.0	1	3.2	2	5.0	4	9.1	13	4.0	21	4.2
9時間以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.5	0	0.0	3	0.9	4	0.8
合計	55	100.0	5	100.0	31	100.0	40	100.0	44	100.0	321	100.0	496	100.0

4.2 芸術・芸能分野の仕事継続意欲別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間 (表 4.2)

芸術・芸能分野の仕事継続意欲についての設問は、「仮に、一生の生活に困らないだけの経済的余裕が得られたら、芸術・芸能の仕事をどうしますか。」(選択肢:「1. 変わらず働く」「2. 働く時間を減らす」「3. 働くのをやめる」「4. わからない」と、「仮に、芸術・芸能の仕事だけで必要最低限の収入を得られる見込みが将来にわたってまったくないことが分かったらどうしますか。」(選択肢:「1. 変わらず働く」「2. 仕事を減らす」「3. 転職する」「4. わからない」)である。

両方答えた者のうち、どちらか一方でも「4. わからない」と回答した者を除外し、両設問の合計点(2～6 点)を算出した。ここでは、値が小さい程、どんな状況になろうとも芸術・芸能分野で仕事を継続する意欲を強く持っており、値が高い程、継続意欲は低いと考えられる。合計点から芸術・芸能分野の継続意欲について 2 点を「非常に高い」、3 点を「高い」、4 点を「平均的」、5 点を「低い」、6 点を「非常に低い」と分類して集計を行った。

K6 スコアが 10 点以上(うつ・不安障害の疑い(重度を含む))の者の割合は、「芸術・芸能分野の継続意欲が非常に高い」(21.3%) 者が最も低く、「同高い」

(25.2%)となったが、業界継続意欲が高い者の中においても、うつ・不安障害の疑い(重度を含む)の者が5人に1人以上存在した。なお、「同平均的」(28.0%)、「同低い」(39.4%)、「同非常に低い」(51.8%)と、業界継続意欲が低く、うつ・不安障害の疑い(重度を含む)の者の割合も高かったが、メンタルヘルスが悪化した結果として意欲が低くなってしまった逆相関の可能性や、サンプル数が小さい点に留意する必要がある。

主観的幸福感が5点未満の割合は、「芸術・芸能分野の継続意欲が非常に高い」(4.0%)者が最も低く、「同高い」(12.1%)、「同平均的」(13.7%)であり、「同低い」(15.1%)、「同非常に低い」(25.9%)となった。なお、主観的幸福感についても、5点未満のサンプル数が小さい点には留意する必要がある。

睡眠時間が5時間未満の割合は、「芸術・芸能分野継続意欲が非常に低い」(29.6%)者を除くと、全カテゴリーにおいて20%未満であった。

表4.2 継続意欲別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間

	芸術・芸能分野 継続意欲が 非常に高い		芸術・芸能分野 継続意欲が 高い		芸術・芸能分野 継続意欲が 平均的		芸術・芸能分野 継続意欲が 低い		芸術・芸能分野 継続意欲が 非常に低い		合計	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
K6 (不安・抑うつ傾向)												
0~4点 (うつ・不安障害の傾向なし)	47	62.7	41	41.4	57	41.0	38	38.4	9	33.3	192	43.7
5~9点 (うつ・不安障害の傾向あり)	12	16.0	33	33.3	43	30.9	22	22.2	4	14.8	114	26.0
10~12点 (うつ・不安障害の疑い)	9	12.0	12	12.1	21	15.1	16	16.2	4	14.8	62	14.1
13点以上 (重度のうつ・不安障害の疑い)	7	9.3	13	13.1	18	12.9	23	23.2	10	37.0	71	16.2
合計	75	100.0	99	100.0	139	100.0	99	100.0	27	100.0	439	100.0
主観的幸福感												
1~2点	0	0.0	3	3.0	3	2.2	3	3.0	5	18.5	14	3.2
3~4点	3	4.0	9	9.1	16	11.5	12	12.1	2	7.4	42	9.6
5~6点	8	10.7	17	17.2	29	20.9	22	22.2	9	33.3	85	19.4
7~8点	36	48.0	45	45.5	59	42.4	44	44.4	7	25.9	191	43.5
9~10点	28	37.3	25	25.3	32	23.0	18	18.2	4	14.8	107	24.4
合計	75	100.0	99	100.0	139	100.0	99	100.0	27	100.0	439	100.0
睡眠時間												
5時間未満	13	17.3	9	9.1	10	7.2	14	14.1	8	29.6	54	12.3
5時間~6時間未満	18	24.0	27	27.3	44	31.7	34	34.3	7	25.9	130	29.6
6時間~7時間未満	29	38.7	36	36.4	61	43.9	32	32.3	9	33.3	167	38.0
7時間~8時間未満	12	16.0	22	22.2	18	12.9	14	14.1	2	7.4	68	15.5
8時間~9時間未満	3	4.0	5	5.1	4	2.9	4	4.0	1	3.7	17	3.9
9時間以上	0	0.0	0	0.0	2	1.4	1	1.0	0	0.0	3	0.7
合計	75	100.0	99	100.0	139	100.0	99	100.0	27	100.0	439	100.0

4.3 週総拘束時間別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間(表 4.3)

週総拘束時間別にメンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間について集計を行った。

K6 スコアが 10 点以上(うつ・不安障害の疑い(重度を含む))の者の割合は、「60 時間以上」(42.3%)において最も高かった。その他は、「20 時間未満」(10.0%)、「20 時間以上 40 時間未満」(26.8%)、「40 時間以上 60 時間未満」(23.5%)であった。

主観的幸福感が 5 点未満の割合は、「20 時間未満」(6.0%)、「20 時間以上 40 時間未満」(19.5%)、「40 時間以上 60 時間未満」(11.2%)、「60 時間以上」(15.9%)であった。

睡眠時間が 5 時間未満の割合は、「20 時間未満」(18.0%)、「20 時間以上 40 時間未満」(3.7%)、「40 時間以上 60 時間未満」(4.3%)、「60 時間以上」(17.1%)であった。

表4.3 週総拘束時間別メンタルヘルス・主観的幸福感・睡眠時間

	20時間未満		20時間以上 40時間未満		40時間以上 60時間未満		60時間以上		合計	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
K6 (不安・抑うつ傾向)										
0～4点 (うつ・不安障害の傾向なし)	27	54.0	36	43.9	95	50.8	63	37.1	221	45.2
5～9点 (うつ・不安障害の傾向あり)	18	36.0	24	29.3	48	25.7	35	20.6	125	25.6
10～12点 (うつ・不安障害の疑い)	1	2.0	11	13.4	21	11.2	31	18.2	64	13.1
13点以上 (重度のうつ・不安障害の疑い)	4	8.0	11	13.4	23	12.3	41	24.1	79	16.2
合計	50	100.0	82	100.0	187	100.0	170	100.0	489	100.0
主観的幸福感										
1～2点	0	0.0	2	2.4	7	3.7	8	4.7	17	3.5
3～4点	3	6.0	14	17.1	14	7.5	19	11.2	50	10.2
5～6点	5	10.0	10	12.2	31	16.6	40	23.5	86	17.6
7～8点	30	60.0	39	47.6	89	47.6	64	37.6	222	45.4
9～10点	12	24.0	17	20.7	46	24.6	39	22.9	114	23.3
合計	50	100.0	82	100.0	187	100.0	170	100.0	489	100.0
睡眠時間										
5時間未満	9	18.0	3	3.7	8	4.3	29	17.1	49	10.0
5時間～6時間未満	13	26.0	20	24.4	54	28.9	60	35.3	147	30.1
6時間～7時間未満	20	40.0	38	46.3	85	45.5	55	32.4	198	40.5
7時間～8時間未満	8	16.0	15	18.3	31	16.6	17	10.0	71	14.5
8時間～9時間未満	0	0.0	5	6.1	7	3.7	8	4.7	20	4.1
9時間以上	0	0.0	1	1.2	2	1.1	1	0.6	4	0.8
合計	50	100.0	82	100.0	187	100.0	170	100.0	489	100.0

5 心理的負荷のある出来事の経験の有無による違い

心理的負荷のある出来事 30 項目の経験の有無別に K6 スコアと、主観的幸福感の平均得点を算出した。また、その経験の有無で平均得点に統計学的な有意差検定を以下の回帰式を用いて分析した。

$$Y_i = \beta_0 + \beta_1 EventExperience_i + \beta_2 Hour_i + \beta_3 Income_i + \beta_4 MiddleMale_i \\ + \beta_5 OldMale_i + \beta_6 YoungFemale_i + \beta_7 MiddleFemale_i \\ + \beta_8 OldFemale_i + u_i$$

サブスクリプト i : 個人

変数 Y_i : K6 スコアの総得点 or 主観的幸福感の得点

$EventExperience_i$: 心理的負荷のある出来事経験ありを示すダミー変数

$Hour_i$: 総拘束時間

$Income_i$: 総収入

$MiddleMale_i$: 40～50 代男性を示すダミー変数

$OldMale_i$: 60 代以上男性を示すダミー変数

$YoungFemale_i$: 30 代以下女性を示すダミー変数

$MiddleFemale_i$: 40～50 代女性を示すダミー変数

$OldFemale_i$: 60 代以上女性を示すダミー変数

u_i : 誤差項

上記の重回帰分析を行い、係数値 β_1 に対して t 検定を行った結果を表 5.1 並びに表 5.2 に示した。統計的な有意水準は $p < 0.05$ とした。分析対象は、総拘束時間 120 時間未満で総拘束時間・総収入・年齢・性別の報告のあった者(456 名)に絞っている。

5.1 各種心理的負荷のある出来事の経験の有無とメンタルヘルス(表 5.1)

30 項目全てにおいて心理的負荷のある出来事の経験がある群の方が、K6 スコアの平均得点が高かった。また、回帰分析の結果、29 項目において統計的に正の有意な差異が認められた。K6 スコアが高いほどメンタルヘルスが悪いと評価されるため、心理的負荷のある出来事を経験した者のメンタルヘルスは悪い傾向にあると解釈される。係数の大きい上位 5 項目は、「怪我や急病時に必要な対応をしてもらえなかった」(5.59)、「仕事の関係者に必要以上に身体を触られた」(4.55)、「不自然な姿勢を長時間取らなければならない」(4.28)、「事前に聞かされていない、許容しがたい業務を求められることがある」(4.24)、「着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした」(4.18)であった。

5.2 各種心理的負荷のある出来事の経験の有無と主観的幸福感(表 5.2)

30 項目中「仕事を受ける前に報酬額を提示されない」を除いた 29 項目において、心理的負荷のある出来事の経験がある群の方が、主観的幸福感の平均得点が低かった。また、回帰分析の結果、18 項目において統計的に負の有意な差異が認められた。これら 18 項目の心理的負荷のある出来事を経験した者の主観的幸福感は統計学的にも低い傾向にあると解釈される。係数の大きい上位 5 項目は、「頼れる人が身近にいない」(-1.59)、「業界の慣習で言いたいことを自由に言えない」(-1.07)、「事前に聞かされていない、許容しがたい業務を求められることがある」(-1.03)、「着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした」(-1.03)、「怪我や急病時に必要な対応をしてもらえなかった」(-1.00)であった。

表5.1 心理的負荷のある出来事30項目の経験の有無とメンタルヘルス

	K6平均得点 (経験有り)	K6平均得点 (経験無し)	回帰分析の 係数値
仕事の関係者とトラブルになった	8.3	5.1	2.81***
自分の仕事为他人の成果として評価されたことがある	8.5	5.6	2.32***
仕事上の友人と腹を割って話せない	10.1	5.6	4.05***
付き合いたくない人と付き合いなければならない	8.2	4.9	2.65***
頼れる人が身近にいない	9.0	5.8	2.98***
支給される食事（口ケ弁等）が脂っこい	8.3	6.1	1.50*
仕事中に休憩を取れないことが多い	8.0	5.8	1.48**
休日や早朝深夜にも働く必要がある	7.1	5.4	1.07
仕事を受ける前に提示された報酬額どおりに支払われなかった	8.5	6.2	1.91**
仕事を受ける前に報酬額を提示されない	7.4	5.7	1.37**
発注取り消しを急に言われることがある	7.8	6.0	1.48**
無理のある納期を求められた	8.3	5.6	2.29***
事前に聞かされていない、許容しがたい業務を求められることがある	10.0	5.2	4.24***
仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない	10.6	6.3	3.59***
自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない	10.2	6.2	3.36***
業界の慣習で言いたいことを自由に言えない	9.7	5.5	3.44***
次の仕事があるか不安である	8.2	5.1	2.98***
視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である	8.8	6.2	2.41***
怪我や急病時に必要な対応をしてもらえなかった	12.0	6.2	5.59***
高所、低所等の危険を感じる場面や場所での作業・設営をしなければならない	9.2	6.2	2.13**
不自然な姿勢を長時間取らなければならない	10.9	5.8	4.28***
自分の仕事場の安全衛生管理者（仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人）が誰か分からない	9.3	5.9	3.12***
着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした	11.4	6.3	4.18***
尿意を催しても我慢しなければならない	9.9	6.0	3.36***
仕事の関係者から殴られた、蹴られた、叩かれた、または怒鳴られた	9.3	5.9	2.76***
仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた	9.0	5.1	3.29***
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	11.6	6.4	4.55***
性的関係を迫られた	10.8	6.5	3.85*
同僚や仲間が音信不通になったり、突然仕事の現場に来なくなることがあった	7.7	5.9	1.38**
同僚や仲間が自殺した	10.1	6.2	3.50***
n			456

はそれぞれ <0.05、** <0.01、*** <0.001 の有意性を示す。

表5.2 心理的負荷のある出来事30項目の経験の有無と主観的幸福感

	主観的幸福感 平均得点 (経験有り)	主観的幸福感 平均得点 (経験無し)	回帰分析の 係数値
仕事の関係者とトラブルになった	6.7	7.4	-0.64**
自分の仕事が他人の成果として評価されたことがある	6.7	7.2	-0.45*
仕事上の友人と腹を割って話せない	6.2	7.3	-0.98***
付き合いたくない人と付き合いなければならない	6.7	7.4	-0.57**
頼れる人が身近にいない	5.8	7.5	-1.59***
支給される食事（ロケ弁等）が脂っこい	6.6	7.2	-0.49*
仕事中に休憩を取れないことが多い	6.9	7.2	-0.23
休日や早朝深夜にも働く必要がある	7.0	7.2	-0.13
仕事を受ける前に提示された報酬額どおりに支払われなかった	6.8	7.1	-0.36
仕事を受ける前に報酬額を提示されない	7.1	7.0	0.08
発注取り消しを急に言われることがある	6.8	7.2	-0.27
無理のある納期を求められた	6.8	7.2	-0.36
事前に聞かされていない、許容しがたい業務を求められることがある	6.3	7.4	-1.03***
仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない	6.2	7.1	-0.79*
自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない	6.3	7.1	-0.65
業界の慣習で言いたいことを自由に言えない	6.2	7.4	-1.07***
次の仕事があるか不安である	6.6	7.5	-0.84***
視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなど の成果が心配である	6.6	7.1	-0.51
怪我や急病時に必要な対応をしてもらえなかった	6.1	7.1	-1.00*
高所、低所等の危険を感じる場面や場所での 作業・設営をしなければならない	6.7	7.1	-0.19
不自然な姿勢を長時間取らなければならない	6.2	7.2	-0.89**
自分の仕事場の安全衛生管理者（仕事上の事故防止や 働く人の健康管理をする人）が誰か分からない	6.5	7.2	-0.66**
着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした	6.0	7.1	-1.03*
尿意を催しても我慢しなければならない	6.3	7.2	-0.83**
仕事の関係者から殴られた、蹴られた、叩かれた、または怒鳴られた	6.4	7.2	-0.75**
仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた	6.5	7.4	-0.77***
仕事の関係者に必要以上に身体を触られた	6.4	7.1	-0.69
性的関係を迫られた	6.5	7.1	-0.58
同僚や仲間が音信不通になったり、 突然仕事の現場に来なくなることがあった	6.9	7.1	-0.14
同僚や仲間が自殺した	6.4	7.1	-0.66*
n			456

はそれぞれ <0.05、** <0.01、*** <0.001 の有意性を示す。

芸術・芸能(制作)分野に従事する方の働き方に関する調査票

Q1. あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

1. 男性	2. 女性	3. 答えたくない
-------	-------	-----------

Q2. あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

1. 20歳未満	2. 20～29歳	3. 30～39歳
4. 40～49歳	5. 50～59歳	6. 60～64歳
7. 65歳～74歳	8. 75歳以上	

Q3. あなたの芸術・芸能の業界で働いている勤続年数を教えてください。

_____年

Q4. あなたが収入を得ている仕事は、いくつありますか。(○は1つ)

1. 仕事は1つだけ	2. 仕事は2つ以上	3. 収入を得ている仕事は無い
------------	------------	-----------------

Q5. 主たる仕事(収入の多寡にかかわらずご自身が主と考えるもの)の職種として該当するものは次のうちどれかをお答えください。(○は1つ)

1. 映像監督、助監督、演出家、プロデューサー	2. 技術スタッフ(撮影、照明、音響・録音、大道具、舞台美術装飾、編集、衣装、メイク、結髪、スクリプター等)
3. 制作、ラインプロデュース、舞台監督、演出助手、演出部	4. 脚本家、劇作家
5. 校正者・組版(レイアウト)・編集者(作画、アニメキャラクターデザイン・原画・背景)	6. 美術館や展覧会の設営スタッフ
7. 芸術・芸能分野のその他の職種(マネージャー、宣伝、販売、アシスタント、運搬等)	8. 実演家、美術家、文筆クリエイター(俳優、舞踊家、漫画家、音楽家、著述家、ライター、漫画家、デザイナー等)
9. 芸術・芸能以外の職業	

Q6. 【仕事は2つ以上の方】上記で答えた以外で仕事として係分野として該当するものは次のうちどれかをお答えください。(○はいくつでも)

1. 映像監督、助監督、演出家、プロデューサー	2. 技術スタッフ(撮影、照明、音響・録音、大道具、舞台美術装飾、編集、衣装、メイク、結髪、スクリプター等)
3. 制作、ラインプロデュース、舞台監督、演出助手、演出部	4. 脚本家、劇作家
5. 校正者・組版(レイアウト)・編集者(作画、アニメキャラクターデザイン・原画・背景)	6. 美術館や展覧会の設営スタッフ
7. 芸術・芸能分野のその他の職種(マネージャー、宣伝、販売、アシスタント、運搬等)	8. 実演家、美術家、文筆クリエイター(俳優、舞踊家、漫画家、音楽家、著述家、ライター、漫画家、デザイナー等)
9. 芸術・芸能以外の職業	

Q7. 主たる仕事(入の多寡にかかわらずご自身が主と考えるもの)の就業形態として該当するものは次のうちどれかをお答えください。(○は1つ)

- | | | | |
|----------------------|------------|---------------------------|------------|
| 1. 正社員・正職員 | 2. 契約社員・嘱託 | 3. パート・アルバイト | 4. 臨時・日雇社員 |
| 5. 労働者派遣事業
所の派遣社員 | 6. 会社などの役員 | 7. 自営業・フリーランス
(劇団に所属等) | 8. その他 |

Q8. 仕事の時間についておたずねします。

- (1) 過去 1 か月に仕事が全くない休日(仕事に関する打ち合わせやリハーサルも入っていない日)は何日ありましたか。

1 か月間に _____ 日

- (2) 過去 1 か月に仕事が入っていないものの、自主的に道具などの手入れや準備、仕事に関する知識や技術の習得をした日は何日ありましたか。

1 か月間に _____ 日

- (3) 過去 1 週間の間に、芸術・芸能分野の制作等の業務のために拘束された時間(自宅と仕事先の移動時間は除きます)は何時間でしたか。また、それらの仕事によって得られる1か月あたりの収入をお答えください。どちらもない場合は0とご記入下さい。

1 週間で _____ 時間 月収 およそ _____ 万 _____ 千円

- (4) 過去 1 週間の間に、制作等の業務以外の芸術・芸能分野に関係した仕事(制作等の業務で得た技術や知識を活かした講師の仕事、演出、映像制作、撮影など)のために拘束された時間(自宅と仕事先の移動時間は除きます)は何時間でしたか。また、それらの仕事によって得られる1か月あたりの収入をお答えください。どちらもない場合は0とご記入下さい。

1 週間で _____ 時間 月収 およそ _____ 万 _____ 千円

- (5) 芸術・芸能分野とは別の分野の仕事をすることはありますか。ある場合は、それに過去 1 週間の間にかかった総時間と、得られたおよその収入をお答えください。ない場合は0とご記入下さい。

1 週間で _____ 時間 月収 およそ _____ 万 _____ 千円

Q9. あなたは、過去 1 年間に芸術・芸能分野の制作スタッフとしての仕事中にケガをしたことはありますか。ケガをされた場合、そのケガのために仕事を休んだのは 4 日以上でしたか。

- | |
|--------------------------------|
| 1. 仕事にケガをしなかった。 |
| 2. 仕事にケガをした。仕事を休んだのは 4 日未満だった。 |
| 3. 仕事にケガをした。仕事を 4 日以上休んだ。 |

Q10. 芸術・芸能(制作)の仕事や活動の開始・終了時刻を自分でどのくらい調整できますか。(○は 1 つ)

- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|----------|
| 1. まったくできない | 2. めったにできない | 3. ときどきはできる | 4. ほぼできる |
|-------------|-------------|-------------|----------|

Q11. 仮に、一生の生活に困らないだけの経済的余裕が得られたら、芸術・芸能(制作)分野の仕事はどうしますか。(○は 1 つ)

- | | | | |
|-----------|-------------|------------|----------|
| 1. 変わらず働く | 2. 働く時間を減らす | 3. 働くのをやめる | 4. わからない |
|-----------|-------------|------------|----------|

Q12. 仮に、芸術・芸能(制作)分野の仕事だけで必要最低限の収入を得られる見込みが将来にわたってまったくないことが分かったら、どうしますか。(○は 1 つ)

- | | | | |
|-------------------|-------------------|---------|----------|
| 1. 変わらず芸術・芸能業界で働く | 2. 芸術・芸能業界の仕事が減らす | 3. 転職する | 4. わからない |
|-------------------|-------------------|---------|----------|

Q13.あなたの仕事の場において、以下のようなことはありますか。あてはまるものに○印をつけてください。
(○はいくつでも)

	あてはまるものに ○印
(1) 仕事の関係者とトラブルになった。	
(2) 自分の仕事为他人の成果として評価されたことがある。	
(3) 仕事上の友人と腹を割って話せない。	
(4) 付き合いたくない人と付き合わなければならない。	
(5) 頼れる人が身近にいない。	
(6) 支給される食事(ロケ弁等)が脂っこい。	
(7) 仕事中に休憩を取れないことが多い。	
(8) 休日や早朝深夜にも働く必要がある。	
(9) 仕事を受ける前に提示された報酬額どおりに支払われなかった。	
(10) 仕事を受ける前に報酬額を提示されない。	
(11) 発注取り消しを急に言われることがある。	
(12) 無理のある納期を求められた。	
(13) 事前に聞かされていない、許容しがたい業務を求められることがある。	
(14) 仕事の発注元・支払元または大元請けが分からない。	
(15) 自分の仕事を指揮しているのが誰かが分からない。	
(16) 業界の慣習で言いたいことを自由に言えない。	
(17) 次の仕事があるか不安である。	
(18) 視聴率が取れるか、チケットノルマ、観客動員数が達成できるかなどの成果が心配である。	
(19) 怪我や急病時に必要な対応をしてもらえなかった。	
(20) 高所、低所等の危険を感じる場面や場所での作業・設営をしなければならない。	
(21) 不自然な姿勢を長時間取らなければならない。	
(22) 自分の仕事場の安全衛生管理者(仕事上の事故防止や働く人の健康管理をする人)が誰か分からない。	
(23) 着替えをする場所が提供されないために嫌な思いをした。	
(24) 尿意を催しても我慢しなければならない。	
(25) 仕事の関係者から殴られた、蹴られた、叩かれた、または怒鳴られた。	
(26) 仕事の関係者に、心が傷つくことを言われた。	
(27) 仕事の関係者に必要以上に身体を触られた。	
(28) 性的関係を迫られた。	
(29) 同僚や仲間が音信不通になったり、突然仕事の現場に来なくなることがあった。	
(30) 同僚や仲間が自殺した。	

Q14. ふだん、夜に何時間眠りますか。(○は1つ)

1. 5 時間未満	2. 5 時間～6 時間未満	3. 6 時間～7 時間未満
4. 7 時間～8 時間未満	5. 8 時間～9 時間未満	6. 9 時間以上

Q15. 仕事(副業や仕事のためのトレーニングを含む)で身体を動かすこと(軽く汗をかく程度)はありますか。(○は1つ)

1. あまりない	2. 月に数回程度	3. 週に1回以上・ 1週間計 60 分未満	4. 週に1回以上・ 1週間計 60 分以上
----------	-----------	---------------------------	---------------------------

Q16. Q 15 以外で余暇や家事などで身体を動かすこと(軽く汗をかく程度)はありますか。(○は1つ)

1. あまりない	2. 月に数回程度	3. 週に1回以上・ 1週間計 60 分未満	4. 週に1回以上・ 1週間計 60 分以上
----------	-----------	---------------------------	---------------------------

Q17. どのくらいの頻度で飲酒をしますか。(○は1つ)

1. 飲まない	2. 週 1～2 日程度	3. 週 3～5 日程度	4. ほぼ毎日
---------	--------------	--------------	---------

Q18. たばこは吸っていますか(電子たばこも含みます)。(○は1つ)

1. 吸わない	2. 過去に吸っていた	3. 吸っている
---------	-------------	----------

Q19. 次の項目について、過去 1 か月間の状況についてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも
(A) 神経過敏に感じましたか	0	1	2	3	4
(B) 絶望的だと感じましたか	0	1	2	3	4
(C) そわそわ、落ち着かなく感じましたか	0	1	2	3	4
(D) 気分が沈みこんで、何か起こっても気が晴れないように感じましたか	0	1	2	3	4
(E) 何をするのも骨折りだと感じましたか	0	1	2	3	4
(F) 自分は価値のない人間だと感じましたか	0	1	2	3	4

Q20. 次の 3 つの質問文は、仕事に関してどう感じているかを記述したものです。

各文をよく読んで、あなたが仕事に関してそのように感じているかどうかを判断してください。そのように感じたことが一度もない場合は 0 (ゼロ) を、感じたことがある場合はその頻度にあてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	全くない	ほとんど感じない	めったに感じない	時々感じる	よく感じる	とてもよく感じる	いつも感じる
(A) 仕事をしていると、活力がみなぎるように感じる	0	1	2	3	4	5	6
(B) 仕事に熱心である	0	1	2	3	4	5	6
(C) 私は仕事にのめり込んでいる	0	1	2	3	4	5	6

Q21.あなたは過去1年間に定期健康診断・人間ドックを受けましたか。(○は1つ)

- | | | |
|--------|-----------|-----------------|
| 1. 受けた | 2. 受けていない | 3. 覚えていない・分からない |
|--------|-----------|-----------------|

■ ふだんのあなたのようすについて、もっとも近いものを選んで下さい。

Q22.日頃、落ち着きや安心感をもつことはできますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------------|--------|----------|---------|
| 1. まったくもてない | 2. すこし | 3. たいがいは | 4. いつでも |
|-------------|--------|----------|---------|

Q23.日頃、愛情や友情、支援は得られていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|--------------|--------|----------|----------|
| 1. まったく得られない | 2. すこし | 3. わりに多く | 4. とても多く |
|--------------|--------|----------|----------|

Q24.日頃、自立できていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------------|----------|-----------|--------|
| 1. まったく自立できていない | 2. いくらかは | 3. 多くのことで | 4. 完全に |
|-----------------|----------|-----------|--------|

Q25.日頃、達成感や成長を感じられますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------------|--------|----------|---------|
| 1. まったく感じない | 2. すこし | 3. たいがいは | 4. いつでも |
|-------------|--------|----------|---------|

Q26.日頃、楽しみや喜びを感じられますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------------|--------|----------|----------|
| 1. まったく感じない | 2. すこし | 3. わりに多く | 4. かなり多く |
|-------------|--------|----------|----------|

Q27.「非常に幸せ」を10点、「全く幸せでない」を1点としたら、あなたはどのくらい幸せだと思いますか？(○は1つ)

- | | | | | | | | | | |
|----------|---|---|---|---|--------|---|---|---|----|
| ←全く幸せでない | | | | | 非常に幸せ→ | | | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |

Q28.最後に卒業した学校はどれですか。(在学中の方は現在のもの) (○は1つ)

- | | | |
|---------------|----------|---------|
| 1. 小・中学校 | 2. 高校 | 3. 専門学校 |
| 4. 短大・高専 | 5. 大学 | 6. 大学院 |
| 7. その他(養成所など) | 8. 回答しない | |

Q29.現在配偶者(法律上の婚姻関係の者)はいますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. いる | 2. いない(未婚) | 3. いない(離婚) |
| 4. いない(死別) | 5. 回答しない | |

Q30.何人暮らしですか(ご自身を含めてください)。(○は1つ)

- | | | |
|---------|----------|-------|
| 1. 1人 | 2. 2人 | 3. 3人 |
| 4. 4人以上 | 5. 回答しない | |

Q31.昨年1年間(2022年1月~12月)の、世帯全体の年間収入(税込み・公的年金含む)はどのくらいですか。(○は1つ)

- | | | | |
|--------------|--------------|-----------------|--------------|
| 1. 100万円未満 | 2. 100~199万円 | 3. 200~299万円 | 4. 300~399万円 |
| 5. 400~499万円 | 6. 500~599万円 | 7. 600~699万円 | 8. 700~799万円 |
| 9. 800~899万円 | 10. 900万以上 | 11. わからない・回答しない | |

これで調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。